



世界の人々の健康と医療の未来に貢献

2020年度第1四半期決算発表



2020年7月31日

Better Health, Brighter Future

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社（we、us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「確実にする（ensures）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」「することができた（could）」、「予想される（anticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の業績は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業績とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規の変更、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、当社が事業を行う国の政府を含む当社とその顧客及び供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとってのノン・コア資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社のウェブサイト(<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/>)又はwww.sec.gov において閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果又はその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

国際会計基準に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、実質的な売上収益、Core営業利益、実質的なCore営業利益、Core純利益、実質的なCore EPS、有利子純負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリーキャッシュフローのように、IFRSに準拠しない財務指標が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュフロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません（IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります）。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションのスライド47-54、57に記載した、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

財務情報

当社の財務諸表は、IFRSに基づき作成しております。米国会計基準に基づき作成されておりましたシャイアー社の売上収益は、IFRSに組み替えておりますが、両者に重大な差異はございません。

シャイアー社の買収は2019年1月8日に完了しており、当社の2019年3月31日までの事業年度における連結業績には、2019年1月8日から2019年3月31日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧Shire社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。

本プレゼンテーションには、シャイアー社の買収が2018年4月1日に完了したとの前提に基づく試算が含まれています。当該試算は、米国証券取引委員会の定めるRegulation S-Xの第11条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。当該試算は、説明の便宜のため提示するものであり、また、本プレゼンテーションの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断は、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしてもすべて当てはまるものではありません。さらに、当該試算は、シャイアー社の取得に直接には起因しない、又はシャイアー社の取得後に生じた、事業売却や取得対価配分（PPA）等の一定の取引及び事象も対象としています。従って、これらは、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしても、当社の財務状況及び業績を正確に反映するものではありません。そのため、本プレゼンテーションに含まれる試算は、必要以上に依拠すべきものではありません。

AGENDA

01. Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO



02. R&D エンジン

アンドリュー・プランプ

リサーチ&デベロップメント
プレジデント



03. 強固な財務プロフィール

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー



04. 質疑応答



INTRODUCTION

01.
Introduction

02.
R&D
エンジン

03.
強固な
財務プロフィール

04.
質疑応答

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

2020年度第1四半期決算は、タケダの強固なポートフォリオを確認



グローバルブランド14製品の実質的な成長率+20%により、力強い2020年度第1四半期業績を達成

- ・ 財務ベース売上収益は8,019億円（約75億米ドル）¹ 主に為替の影響を受け△5.6%、実質的な売上収益成長率は+0.9%²
- ・ 主要な5つのビジネスエリアが売上収益全体の83%を占め、実質的な成長率は+6%
- ・ タケダのポートフォリオは、ニューロサイエンスでの若干の減速を除きCOVID-19状況下でおおむね良好に推移
- ・ 血漿分画製剤の免疫領域の実質的な成長率は+19%、現在までに COVID-19によりドナーからの血漿採取量に幾らかの減少が見られているが2020年度売上収益への影響は見込まない

今後12か月の間に7つのNDA申請が予定されるR&Dエンジンのモメンタム

- ・ 2020年5月米国にてALUNBRIGが承認取得（1L ALK陽性非小細胞肺癌）、ADCETRISの欧州承認（1L 未分化大細胞リンパ腫）、中国承認（再発/難治性CD30陽性リンパ腫）
- ・ Pevonedistatが高リスク骨髄異形成症候群に対してFDAからブレイクスルーセラピー指定（BTD）を取得、経口投与可能なTAK-994のナルコレプシータイプ1でのPh2試験に最初の患者登録
- ・ TAK-721、TAK-609、CoVIg-19、TAK-003、mobocertinib、pevonedistat、maribavirについて今後12か月の間にNDA申請を目標

力強い利益率およびキャッシュ・フローが財務目標を達成するための自信を深める

- ・ 財務ベース営業利益1,673億円、取得対価配分（PPA）および統合費用の低下を反映し、対前年同期で+270.4%と著しい改善
- ・ Core営業利益³は2,809億円（約26億米ドル）¹、コストシナジーおよび営業経費効率化が寄与し実質的なCore営業利益率は34.7%³
- ・ 半期配当金支払い後でも力強いフリー・キャッシュ・フロー1,463億円⁴により、純有利子負債/調整後EBITDA⁵ 3.7倍と更なるレバレッジ低下を可能に
- ・ 安定した事業売却の進捗；2019年4月から現在までに、最大で約80億米ドルの6つの売却案件を公表

- One Takedaとして事業運営、新たな従業員株式購入制度により国外の従業員による当社ADSの購入が可能に
- 光工場において、FDA査察中に同定された課題を解決する明確な道筋

*1. 米ドルでの表記は1米ドル107円で換算した参考値。

*2. 調整表は47-48ページをご参照下さい。

*3. 定義は43ページ、調整表は48ページをご参照下さい。

*4. 調整表は52ページをご参照下さい。

*5. 定義は44ページ、調整表は53-54ページをご参照下さい。

NDA：New Drug Application（新薬承認申請）、ASCO：米国臨床腫瘍学会、PPA：Purchase Price Allocation、

BTD：Breakthrough Therapy Designation、ADS：American Depository Shares

疾患名の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

COVID-19の影響を軽減するための当社の取り組み



従業員の安全確保

- 世界の従業員の多くがガイダンスに従ってテレワークを継続。製造・研究所・BioLife血漿収集施設において、現場での業務継続が求められている社員に対しては、ウイルスの拡散を抑えるための安全対策の強化を実施
- 地域の公衆衛生指導を遵守した感染予防対策の強化を実施した後、職場復帰可能なテレワーク勤務の従業員を段階的に現場に戻す計画
- すべての不要不急な海外出張に対する制限を延長



事業の継続性維持

- COVID-19の流行拡大によるいかなる潜在的な供給の混乱は生じておらず、また現在のところ予想していない
- 当社の現場営業について面会全体の大部分は依然としてバーチャルであるものの、顧客との対面での関わりを少数ながら再開。当社が対面のミーティングを実施する場合、医療従事者からの要請に基づくもので、当社と医療機関の両方によって定められた厳格な感染予防プロトコルに従業員は従う
- 一時的な休止後、新たな治験実施施設のオープンおよび進行中の治験への患者登録を再開
- 治験薬の患者への直接配達および治験デザインの再評価を通じて、進行中の臨床試験への潜在的な混乱を最小限に抑える。臨床試験に登録された患者の遠隔モニタリングを可能にするデジタル技術の評価と構築を継続



潜在的な医薬品の開発

- COVID-19の治療薬として潜在的なノン・ブランド治療薬を開発するために、CoVIg-19プラズマ・アライアンスを引き続き進展。治験中の高度免疫グロブリン（H-Ig）であるCoVIg-19の最初のバッチの製造は、5月に当社のジョージア州の製造拠点で開始
- 米国でCOVID-19生存者に回復期血漿の提供を促すキャンペーン“The Fight Is In Us”を立ち上げるため、いくつかの公的、民間、非政府組織と提携
- 上記に加え、その他社内の治療方法（icatibant、TAKHZYRO（lanadelumab））のリポジショニングおよび治験薬（TAK-981、TAK-671）について再評価しながら、新たなアプローチでの治療研究を実施

- 赤十字や国連主導団体を含む非営利団体への約2,500万米ドルの寄付など、寄付を通じたCOVID-19への対応を支援するとともに、危機時に必要とされるコミュニティを支援するための現物寄付や従業員寄付およびマッチングギフトも行っている

光工場：FDA査察中に同定された課題を解決する明確な道筋

タケダは、これまで品質基準を遵守してきた力強い実績がある

- 2019年11月に実施されたFDAの査察に続き、2020年6月9日に当社はFDAよりWarning Letterを受領。Warning Letterには、製造作業、無菌管理、装置の予防的保守、文書管理および品質監視に関する手順についていくつかの技術的な内容が含まれていた。当社は、定められた15営業日内である2020年6月30日に回答を提出
- 当社は2019年度にグローバルで69の規制当局による査察を120件受けており、これらのうち11件はFDAによるものであり、光工場を除き重大な懸念は生じなかった
- 光工場は、グローバルな規制当局の査察における明確な実績を有する。FDAによる前回2017年の光工場の査察は満足する結果であった

当社はこの状況をタイムリーに改善するためにFDAと緊密に連携することをコミット

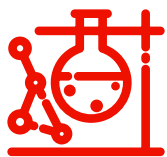
- 外部コンサルタントからの追加支援を含め、必要なすべてのリソースを備えた包括的な是正・予防措置（CAPA）計画を確立

患者さんへの影響を最小限に抑えることが当社の優先事項

- 当社は影響を最小限に抑えるために取り組み（製剤切替依頼など）、2020年7月20日に日本市場向けの製造を再開。日本において、リュープロレリンの一部欠品が見込まれるが、2020年9月には供給再開を見込む
- 現段階では、リュープロレリンの世界的な供給不足を見込んでいないが、米国を含む一部の地域で短期間な欠品の可能性

- ENTYVIO**は、原薬についての新たなグローバル製造拠点であるブルックリンパーク（ミネソタ州）を含む、様々な社内外の製造施設のネットワークで、増大する需要を持続的にサポートするために製造。ENTYVIOは米国市場向けに光工場での製造を継続
- 現時点において、ENTYVIOのいかなるサプライチェーンの問題も見込まず**

- リュープロレリン**の供給量は、複数の要因により減少。現行の規制や当社の基準に対するコンプライアンス遵守の強化のために製造を停止したほか、査察に対応する是正措置のために、製造停止を延長
- その結果、2020年度のリュープロレリン売上高に若干の影響がみられる可能性があるが、重大な全社的影響を想定しない（2019年度リュープロレリン売上高：1,090億円 [日本407億円、EUCAN294億円、米国222億円、GEM167億円]）
- 光工場に加え、リュープロレリンは大阪工場でも製造しており（欧州市場向けのすべてを含む）、2022年から生産能力を拡大するために、新たな生産ラインへの投資を実施



R&D エンジン

01.

Introduction

02.

R&D
エンジン

03.

強固な
財務プロファイル

04.

質疑応答

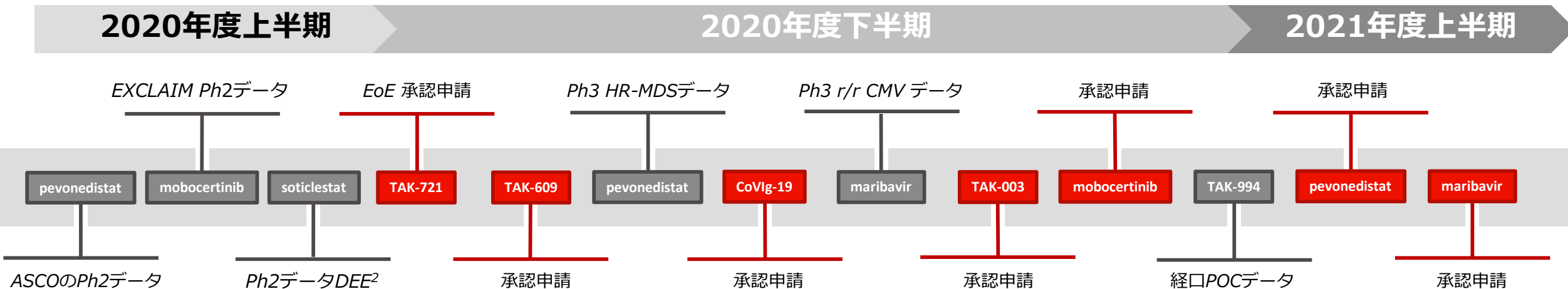


アンドリュー・プランプ

リサーチ&デベロップメント
プレジデント

今後12か月間に、7品目のウェーブ1 NMEsを申請できる可能性 グローバルブランドの適応拡大

直近のウェーブ1新規候補物質のマイルストーン¹



主要ブランドの適応拡大

上市製品	達成されたマイルストーン	今後12か月の間に予想される次のマイルストーン
ALUNBRIG	米国、欧州においてALK陽性非小細胞肺癌 一次治療として承認（ALTA-1試験）	欧州における第2世代チロシンキナーゼ阻害剤治療後のALK陽性非小細胞肺癌 に対する2次治療での申請（ALTA-2試験） 米国、欧州でのアレクチニブとの直接比較試験による申請（ALTA-3試験）
NINLARO	日本において移植実施後の多発性骨髄腫の維持療法として承認 （MM3試験）	日本における移植未実施の多発性骨髄腫の維持療法としての承認（MM4試験）
ENTYVIO	欧州において潰瘍性大腸炎およびクローン病に対する 皮下投与製剤の承認（VISIBLE 1&2試験）	米国における潰瘍性大腸炎およびクローン病に対する皮下投与製剤の承認 （VISIBLE 1&2試験）
VONVENDI	日本においてフォン・ヴィレブランド病での承認	米国におけるフォン・ヴィレブランド病の定期補充療法での承認

注：ウェーブ1プログラムは、2024年度までに上市予定の新規候補物質（NMEs）。ウェーブ2プログラムは、2024年度以降に上市予定のNMEs。

*1. 各年度半期における厳選したウェーブ1のマイルストーン。ウェーブ2プログラムは掲載していない。予想されるマイルストーンはデータの読み出し時期に依存する。

*2. DEEのデータの読み出しは、ELEKTRA試験およびARCADE試験からを見込む。

疾患名の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

新たに得られるデータに基づいたパイプラインの力強いモメンタム

ウェーブ¹

ウェーブ²

臨床段階の新規候補物質（NMEs）

承認目標 →

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

2024年度

2025/2026年度

2027年度以降

 オンコロジー

mobocertinib
2L NSCLC with
EGFR exon 20
insertion mutation³

pevonedistat
HR-MDS

mobocertinib
1L NSCLC with
EGFR exon 20
insertion mutation

pevonedistat
Unfit AML

TAK-007
CD19+ hematologic
malignancies

TAK-981
Multiple cancers

mobocertinib
HER2 mutant
NSCLC

TAK-252
Solid tumors

TAK-573
R/R MM

TAK-605
Multiple cancers

TAK-169
R/R MM

TAK-676
Solid tumors

 希少疾患
免疫疾患
血液疾患
代謝性疾患

maribavir
R/R CMV infect. in
transplant

maribavir
1L CMV infect. in
HSCT

TAK-611
MLD (IT)

TAK-609
Hunter CNS (IT)

TAK-755
cTTP

TAK-755
iTTP, SCD

TAK-079
MG, ITP

TAK-607
Complications of
prematurity

TAK-754
HemA

 ニューロ
サイエンス

soticlestat
DEE

Orexin2R-ag
(TAK-925/994)
Narcolepsy T1

TAK-935
CRPS

WVE-120101
Huntington's
Disease

Orexin2R-ag
Sleep Disorders

WVE-120102
Huntington's
Disease

TAK-341
Parkinson's Disease

TAK-041
Anhedonia in MDD

TAK-653
TRD

TAK-831
CIAS NS

 消化器系疾患

TAK-721
EoE

TAK-062
Celiac Disease

TAK-101
Celiac Disease

TAK-018
Crohn's Disease
(post-op and ileitis)

TAK-671
Acute Pancreatitis

TAK-951
Nausea & vomiting

TAK-906
Gastroparesis

TAK-954
POGD

TAK-039
Hepatic
encephalopathy

 ワクチン

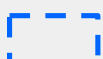
TAK-003
Dengue Vaccine

TAK-426
Zika Vaccine

TAK-214
Norovirus Vaccine

 血漿分画製剤

CoVlg-19⁴
COVID-19 H-IG
(Formerly TAK-888)

 希少疾病用医薬品
 2020年度第1四半期に
経口TAK-994のNT1
でのPh2試験開始
 Neurocrineとの提携

*1. 承認日の予想はデータ読み出しに影響される、ウェーブ1の一部の目標承認日は迅速承認を想定

*2. ウェーブ2の一部は、画期的なデータを取得すればウェーブ1に加速される可能性もある

*3. Ph2データでの申請を想定した承認予想時期

*4. 2020年度上期にFPIが予想されるため臨床パイプラインへの新規追加予定

全てのタイムラインは2020年7月31日時点における最良の予測であり、COVID-19によって影響を受ける可能性がある。疾患名の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

PEVONEDISTATの有望なPOCデータ、高リスク骨髄異形成症候群（HR-MDS）に対してFDAからブレイクスルーセラピー指定を取得

pevonedistat (TAK-924)

pevonedistatは高リスク骨髄異形成症候群において10年以上ぶりの新しい治療選択肢となる可能性



HR-MDS

強力な 化学療法に 非適応のAML

市場機会

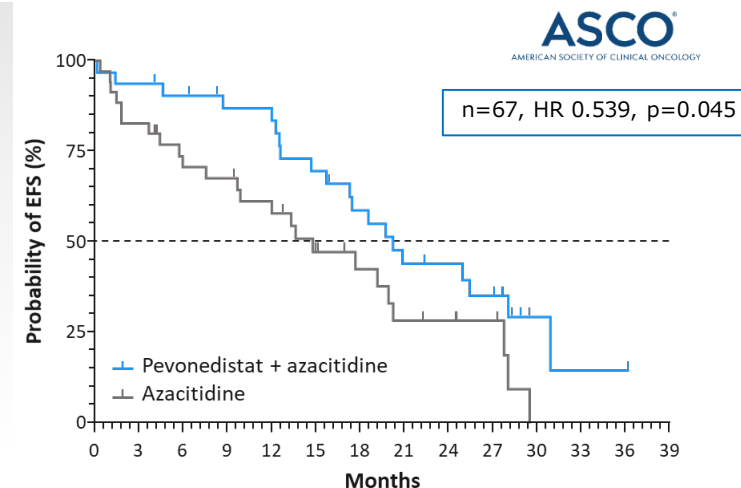
主要 マイルストーン

- アザシチジンにpevonedistatを併用することで完全寛解率（CR）¹を2倍にするとともに、全生存期間（OS）²と無イベント生存期間（EFS）³の改善の可能性を示した。アザシチジン単独と同様の安全性プロファイル
- 大きなニーズ：患者の予後は不良であり治療選択肢は限られる
- 二次性AMLにおいても、全奏効率（ORR）60%で生存の改善傾向あり⁴
- 高リスクMDS 1L： 約7千人 米国 | 1.5-2万人 G7⁵
- 非適応AML 1L： 約1.2万人 米国 | 2-2.5万人 G7
- 高リスクMDS Ph3（PANTHER）試験のデータ読み出しは2020年度下期
- 移植非適応AMLにおけるPh3試験（PEVOLAM）試験のデータ読み出しは2023年度

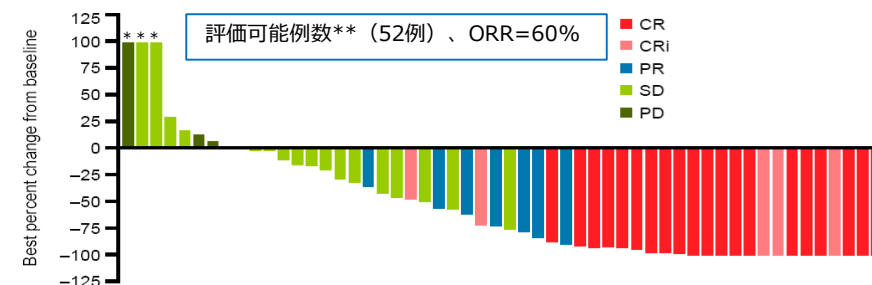
P2001: 高リスク骨髄異形成症候群におけるフェーズ2のPOC

ASCO2020年次総会で発表されたデータ

EFS³



高齢者AMLにおける骨髄芽球のベースラインからの最大変化率



* ベースラインからの最大変化率>100%

** 評価可能例（MTDコホート：n=52、pevonedistat 30mg/m²コホート：n=2）

*1. CR：完全寛解率

*2. OS：全生存期間

*3. EFS：無イベント生存期間、死亡またはAMLへの転化と定義

*4. Ronan T Swords et al. Blood 2016: 128:98 AMLでのPh1b試験データ

*5. G7：7か国は、米国、ドイツ、フランス、英国、イタリア、日本、カナダ

TAK-721: 好酸球性食道炎 (EoE) に対する初のFDA承認治療薬を目指し予定通りに進捗中

TAK-721

EoEを対象とする濃厚化ブデソニド経口懸濁液



好酸球性 食道炎 (EoE)

- 嚥下機能障害に至る食道の慢性・アレルギー性炎症の病態
- 米国では承認された薬剤なし
- 標準治療は食物除去、プロトンポンプ阻害薬およびステロイド¹の適応外使用
- FDAのオーファンドラッグおよびBreakthrough Therapy 指定を獲得

市場機会

- 米国：患者数>15万人、急速に増大

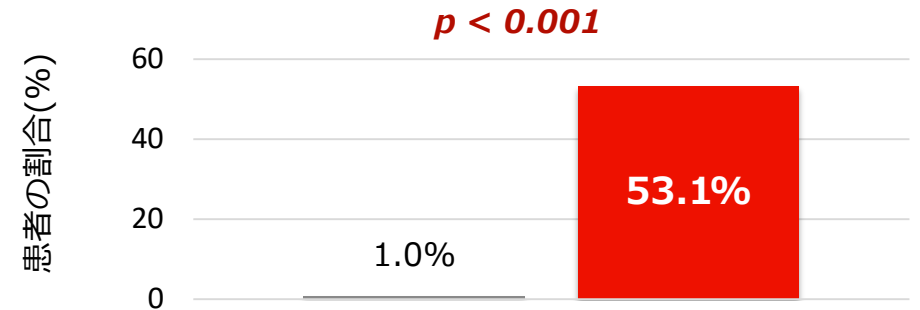
主要 マイルストーン

- 2020年度に米国にて好酸球性食道炎の適応症で申請
- 長期継続投与試験が継続中
- 2020年に主要医学雑誌へ掲載

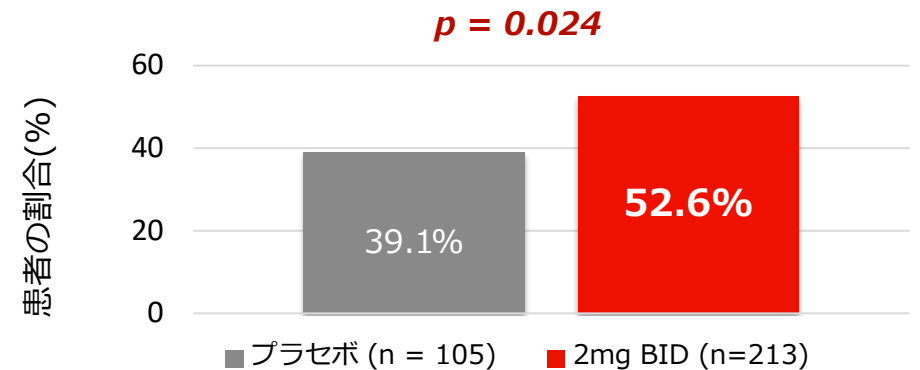
12週データは組織学的および症状に有意な反応

試験結果をACG⁴のPresidential Plenaryセッションにて発表
(テキサス、2019年10月)

12週後の組織学的反応 (生検組織の好酸球が強拡大視野当たり6個以下²)



12週後の症状反応 (DSQスコア³の30%以上の低下)



*1. Gastroenterology 2020; 158: 1776 - 1786. EoE患者では、AGA/JTFはグルココルチコステロイドの局所投与を無治療よりも推奨している。喘息用のグルココルチコイドを飲み込んで服用 (例えば、自家製または調合された濃厚化ブデソニド溶液もしくはフルチカゾンエアロゾルの嚥下)

*2. Eos/hpf: 強拡大視野あたりの好酸球の数値; BID: 1日2回; SOC: 標準療法; NDA: 新薬承認申請

*3. DSQスコア: 嚥下障害症状質問票患者が回答したアウトカムスコア

*4. American College of Gastroenterology

MARIBAVIR (TAK-620) : サイトメガロウイルス感染症 (CMV) は固形臓器移植および造血幹細胞移植 (HSCT) 患者に最も多く見られる移植後ウイルス感染症

maribavir (TAK-620)

移植後のCMV感染症患者に対して、
この10年以上で初めて承認される可能性のある治療薬



CMV

- 既存治療は移植後のサイトメガロウイルス感染症治療に対して承認されていない^{1,2,3,4,5}；重篤な毒性および耐性発現により、臨床的有用性は限定的 → 予後は不良
- Maribavirは、米国/欧州にてオーファンドラッグ指定、米国にてブレイクスルーセラピーに指定

市場機会

- 2L 治療抵抗性/難治性、不耐性：約7千人 米国 | 約2.5万人 世界
- 1L：約1.5万人 米国 | 約4.5万人 世界

主要 マイルストーン

- CMV 2L R/RにおけるPh3データ読み出しは2020年度
- CMV 2L R/Rにおける米国申請は、2020年度第4四半期もしくは2021年度第1四半期
- CMV 1次治療におけるPh3データ読み出しは2021年度

力強い有効性と安全性での差別化

Clinical Infectious Diseases⁶に掲載された2L R/R CMVのPh2データ

有効性の評価項目

- 投与6週間までのCMVウイルス量のクリアランス

全体：67%の有効性 → 過去のアウトカム（約50%）を上回る大幅な改善^{7,8,9}

良好な安全性プロファイル → 腎毒性および骨髄抑制による治療中止なし

NEJM¹⁰誌に掲載された1L CMV Ph2データ

有効性の評価項目

- 投与後6週間以内のCMVウイルス量のクリアランス

	Maribavir	Valganciclovir
CMVのクリアランス	79%	67%
好中球減少症	6%	22%

*1. Cidofovir (CDV) または Vistideは、エイズ患者におけるCMV網膜炎の治療に適用される
*2. Ganciclovir 静注 (GCV) は、エイズを含む免疫不全の成人におけるCMV網膜炎の治療、およびCMV感染症のリスクがある成人移植レシピエントにおけるCMV予防についても適用される
*3. Valganciclovir 経口 (VGCV) は、エイズ患者におけるCMV網膜炎および、ハイリスクの固形臓器移植 (SOT) 患者におけるCMV疾患の予防に適用される
*4. Foscavir (FCV) または Foscarnetは、エイズ患者のCMV網膜炎に適用され、いずれかの薬剤による単剤療法後に再発した患者に対しては、foscavirとganciclovirの併用療法が適用される

*5. Letermovir または Prevymisは、同種造血幹細胞移植 (HSCT) の成人CMVセロポジティブレシピエントにおけるCMV感染の予防に適用される
*6. Clin Infect Dis. 2019 Apr 8;68(8):1255-1264
*7. Antimicrob Agents Chemother, 58, 128-35, 2014
*8. Mehta et al, 2016 American Transplant Congress, Meeting abstract C279
*9. J Heart Lung Transplant. 2019;Vol.38,Issue 12;p.1268-1274
*10. N Engl J Med 2019; 381: 1136-47

MOBOCERTINIB (TAK-788) : エクソン20挿入変異を有するNSCLC患者 に対する新たな標準治療を確立する可能性

mobocertinib (TAK-788)

エクソン20挿入変異を有するNSCLC患者に対する
新たな標準治療となる可能性



EGFR/HER2
エクソン20
NSCLC

市場機会

- 高いアンメットニーズ：承認された治療法はエクソン20挿入変異を有する患者にほとんど利益をもたらさない
- ブレイクスルーセラピー指定およびファストトラック指定をFDAから受けている
- Exclaim試験での有効性を高める目的で、消化器関連の有害事象マネジメントのアプローチを修正
- 1L/2L エクソン20 NSCLC: 約4千人 米国 | 2~3万人 世界

主要
マイルストーン



- 2L+ NSCLC EGFRエクソン20のピボタルPh2試験のデータ読み出しは2020年度第2四半期
- 2L+ NSCLC EGFRエクソン20の米国申請は2020年度下期



HER2変異
固形がん

- 1L NSCLC EGFRエクソン20におけるPh3グローバル試験のデータ読み出しは2022年度。すべての患者に消化器症状の予防を実施
- HER2変異固形がんにおけるmobocertinib併用療法のPh2試験は2020年度に開始される可能性

消化器症状への十分な予防対応 → 有効性が高まる

ASCO 2019で発表されたフェーズ1/2のデータ

ORR43% およびPFS中央値7.3ヵ月
下痢管理が著しく遅れた -
グレード2以前に薬剤管理実施せず

TAK-788 投与平均期間7.9ヵ月

下痢	投与期間 (月)	2019 ASCO ANNUAL MEETING
グレード3	4.6	
グレード2	9.8	
グレード1	12.7	
下痢なし	12.1	

2020年度第2四半期データ読み出し



進行中の臨床試験では、包括的な
下痢管理ガイドラインを早期に実施

2024年度までに承認目標とする 現在の治療法を大きく変える可能性を持つウェーブ1プログラム

現在の治療法を
大きく変える
可能性

重要なデータ

ステータス

市場機会

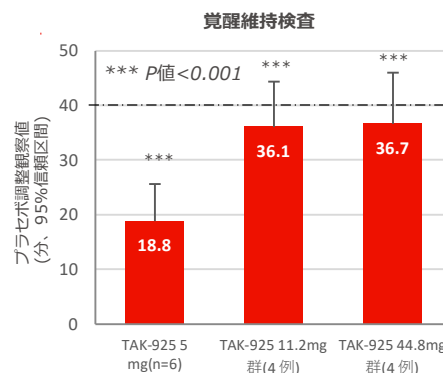


TAK-994

ナルコレプシータイプ1
経口オレキシン2受容体作動薬

ナルコレプシータイプ1（NT1）の原因となるオレキシン欠乏に直接作用し、正常な機能を回復させるファースト・イン・クラス治療薬となる可能性

- 新規試験薬である静脈投与のオレキシン2受容体（OX2R）作動薬を用いた初期の臨床試験で、ナルコレプシータイプ1患者においてTAK-925はプラセボと比較して40分テストの完了に至る水準の覚醒を示した。非臨床試験では、試験薬である経口投与可能なOX2R作動薬TAK-994投与中に情動脱力発作（カタプレキシー）および睡眠/覚醒パターンに対する有益性が示された



初めての経口投与可能なOX2R作動薬として、TAK-994は2020年6月に臨床POC試験を開始。データ読み出し目標は2020年度下期

- NT1の世界有病率は1万人あたり2～6人、主要市場（米国、欧州5カ国、日本、中国）における成人での総有病者数は、全体で約70万人（米国では14万人）
- 推定診断率は、米国/欧州/日本の全体で約30～50%、中国では6%
- 一般的に診断には5～15年かかってしまう

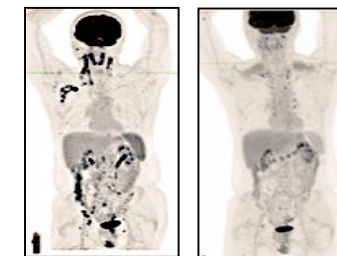


TAK-007

血液がん
CD19 CAR-NK

安全性面で差別化され、“CAR-Tに匹敵する”有効性を有するCD19陽性B細胞性の血液がんに対する既製化（“off-the-self”）細胞療法となる可能性

- サイトカイン放出症候群、神経毒性、移植片対宿主病の発生を伴わず、CAR-T細胞療法に匹敵する効果が示された力強い臨床第1/2相試験データ
- 11人の被験者のうち、8人は治療で奏功（73%）、7人は完全奏効（64%）を示した



ベースラインスキャン CAR19-NK投与後30日目

CD19陽性B細胞性の血液がんを対象とした臨床第1/2相試験の拡大コホートを現在登録中；2021年度よりピボタル試験開始目標

- 3次治療以降のDLBCL、CLL、iNHL 患者数：約9千人（米国）、1.5-2.5万人（主要7カ国）
- 2次治療への適応やCAR-NK基盤技術を他の悪性腫瘍に展開できる可能性
- 本治療は外来での治療を見込む。現在のCAR-T細胞療法は専門の移植センターに限定して実施

パンデミックによる潜在的遅延の可能性を認識しつつも 2020年度における主要な目標達成に向けた推進を継続

	作用機序	疾患/事業領域	予定されるイベント ¹	20年度	
ウェーブ1	mobocertinib (TAK-788)	EGFR/HER2 チロシンキナーゼ阻害薬	オンコロジー	EGFR exon20挿入変異を有する非小細胞肺がん 米国申請	H2
	TAK-007	CD19 CAR-NK	オンコロジー	MDアンダーソンがんセンターにおいて既製化された（off-the-shelf）凍結 保存製品の第一被験者への投与開始	H2
	maribavir (TAK-620)	CMVプロテインキナーゼ 阻害薬	希少疾患	移植を受けた治療抵抗性/難治性サイトメガロウイルス感染症 303 臨床第3相 試験 データ読み出し	H2
	TAK-609	イズロン酸-2-スルファターゼ 補充（髄腔内投与）	希少疾患	ハンター症候群（認知障害） 米国申請	H2
	soticlestat (TAK-935)	CH24H阻害薬	ニューロ サイエンス	レノックス・ガストー症候群 (ELEKTRA試験) POC検証試験データ読み出し	H1
				ドラベ症候群 (ELEKTRA試験) POC検証試験データ読み出し	H1
				複合性局所疼痛症候群 (CRPS) POC検証試験データ読み出し	H1
	TAK-994	オレキシニン2Rアゴニスト	ニューロ サイエンス	TAK-994 経口剤 POC検証試験データ読み出し	H2
	TAK-721	粘膜付着性局所 コルチステロイド	消化器系疾患	好酸球性食道炎 米国申請	H1
	CoVIg-19	高度免疫グロブリン	血漿分画製剤	COVID-19患者を対象とする申請が可能な臨床試験開始	H1
				COVID-19治療薬として、CoVIg-19の最初の主要な承認取得	H2
TAK-003	デング熱ワクチン	ワクチン	感染流行地域においてデング熱ワクチンとして申請	H2	
ウェーブ2	TAK-676	STINGアゴニスト	オンコロジー	静脈内投与 臨床第1相試験開始	H1
	TAK-605	腫瘍溶解性ウィルス	オンコロジー	腫瘍内投与 臨床第1相試験開始	H1
	TAK-102	GPC3 CAR-T	オンコロジー	臨床第1相試験開始	H1
	TAK-940	CD19-1XX CAR-T	オンコロジー	臨床第1相試験開始	H1
	GDX012	γδ T細胞療法	オンコロジー	臨床第1相試験開始	H2
	TAK-062	グルテン分解酵素	消化器系疾患	セリアック病 臨床第2相試験開始	H2

*1. 全てのタイムラインは2020年7月31日時点における最良の予測であり、COVID-19によって影響を受ける可能性がある。

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものでない。疾患名の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

2020年度に予定される承認済医薬品における主要な開発イベント

	品目	予定されるイベント ¹	20年度	
 オンコロジー	ALUNBRIG	ALK陽性非小細胞肺癌（NSCLC）1次治療 米国承認	H1	✓
		第2世代TKI投与歴のあるALK陽性NSCLC 2次治療以降 米国・欧州申請	H2	
	ICLUSIG	慢性期慢性骨髄性白血病（CP-CML）を対象とする用量設定試験（OPTIC試験） 米国申請	H1	
 希少疾患	VONVENDI	フォン・ヴィレブランド病の定期補充療法 米国申請	H2	
	TAKHZYRO	ブラジキニン介在性血管性浮腫 申請が可能な臨床試験開始	H1	
	NATPARA	将来的な供給再開および時期についてFDAと合意	H2	
 消化器系疾患	ALOFISEL	コンプレックスクリプトグランデュラ痔瘻 申請が可能な臨床試験開始	H2	
	ENTYVIO	潰瘍性大腸炎およびクローン病 皮下投与製剤 欧州承認	H1	✓
		皮下投与製剤に対するCRL（審査完了通知）につきFDAと解決に向けた進め方を合意	H1	
中国で予定 される申請・承認	GATTEX	短腸症候群 日本申請	H2	
	ADCETRIS	再発・難治性のホジキンリンパ腫および未分化大細胞リンパ腫 承認	H1	✓
	REPLAGAL	ファブリー病 承認	H2	
	VPRIV	ゴーシェ病 承認	H2	
	TAKHZYRO	遺伝性血管性浮腫 承認	H2	
	ALUNBRIG	ALK陽性NSCLC 1次治療 申請	H2	

*1. 全てのタイムラインは2020年7月31日時点における最良の予測であり、COVID-19によって影響を受ける可能性がある。

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものでない。疾患名の略語用語集は参考資料をご参照下さい。



強固な 財務プロファイル

コスタ・サルウコス
チーフフィナンシャルオフィサー

01.
Introduction

02.
R&D
エンジン

03.
強固な
財務プロファイル

04.
質疑応答

力強い利益率およびキャッシュ・フローが 2020年度ガイダンスおよび中期の財務目標を達成するための自信を深める

	2020年度第1四半期実績	2020年度 目標	財務目標
実質的な売上収益 成長率 ¹	+0.9%	一桁台前半の成長率	中期に加速
実質的な Core営業利益率 ²	34.7%	30%台前半	30%台半ば (2021-2023年度内)
フリー・ キャッシュ・フロー ³	1,463億円	6,000 - 7,000億円	
2020年度第1四半期末時点			
事業売却	最大 約80億米ドル 2019年4月以降、6つの事業売却を公表		100億米ドル
レバレッジ低下	3.7x 純有利子負債/調整後EBITDA ⁴		2倍 (2021-2023年度内)

*1. 調整表は47-48ページをご参照下さい。

*2. 実質的なCore営業利益率。定義は43ページ、調整表は48ページをご参照下さい。

*3. 調整表は52ページをご参照下さい。

*4. 定義は44ページ、調整表は53-54ページをご参照下さい。

第1四半期財務ベース営業利益は+270.4%と取得対価配分（PPA）および 統合費用の低下を反映、利益率および実質ベースの業績は力強いスタートを切る

2020年度第1四半期 連結業績（サマリー）

(億円)	財務ベース		CORE ¹		実質ベース ²
	2020年度第1四半期	対前年同期	2020年度第1四半期	対前年同期	
売上収益	8,019	△5.6%	8,019	△5.6%	+0.9%
営業利益	1,673	+270.4%	2,809	△0.7%	+11.2%
営業利益率	20.9%	+15.5pp	35.0%	+1.7pp	34.7%
当期利益	825	+1,077.2%	1,906	△3.9%	
EPS（円）	53 yen	+48 yen	122 yen	△5 yen	+8.7%
営業活動による キャッシュ・フロー	1,459	+20.8%			
フリー・キャッシュ・フロー ³	1,463	+64.0%			

*1. 定義は43ページ、調整表は48ページをご参照下さい。

*2. 定義は43ページ、調整表は47-48ページをご参照下さい。

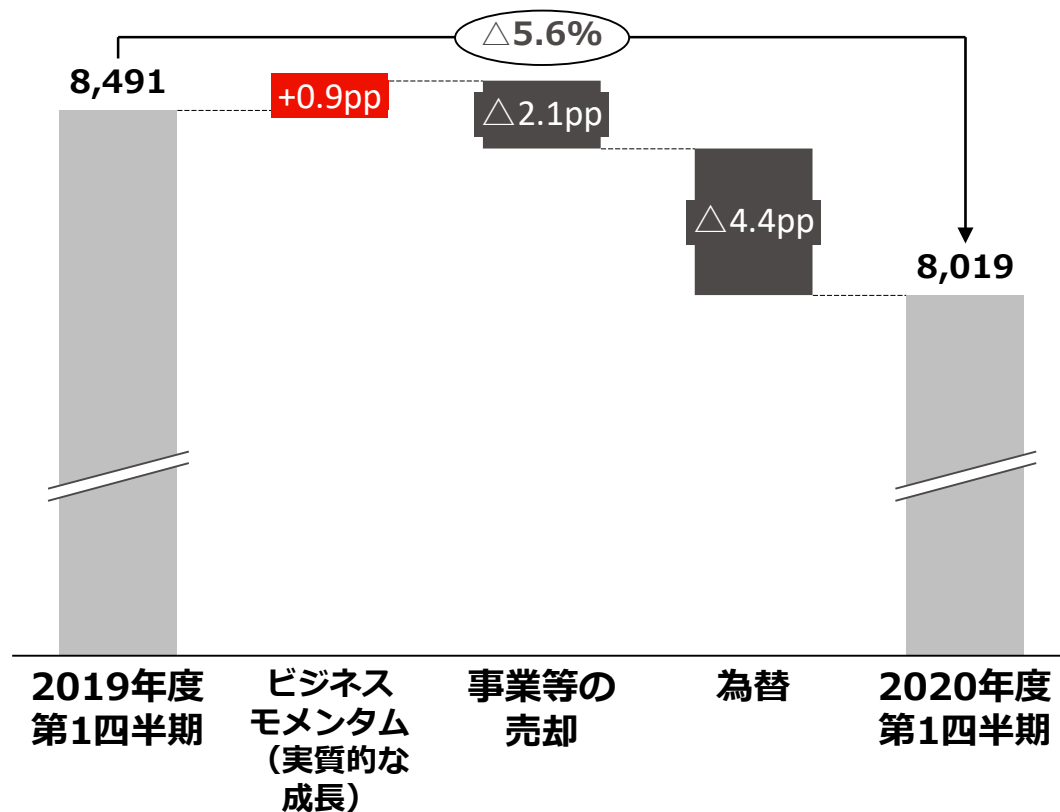
*3. 調整表は52ページをご参照下さい。

PPA: Price Purchase Allocation

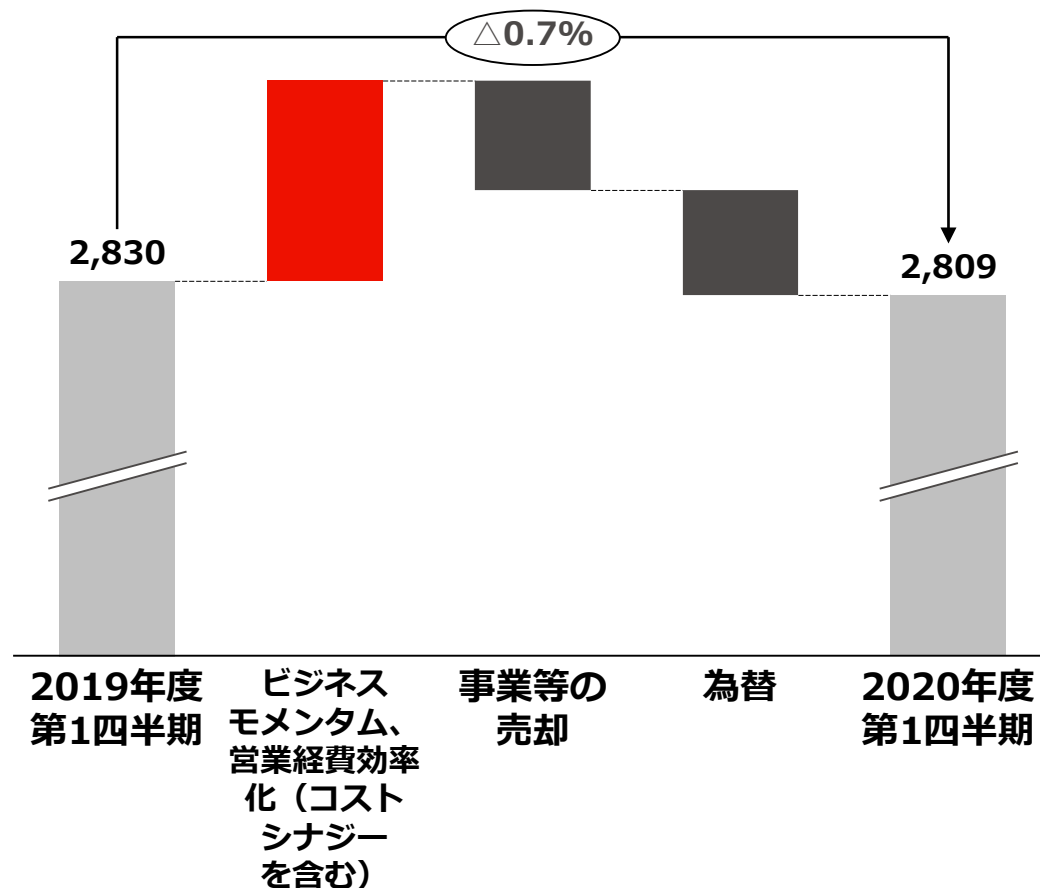
財務ベース売上収益およびCore営業利益は為替の影響を著しく受ける

財務ベース売上収益（対2019年度第1四半期）

（億円）



Core営業利益¹（対2019年度第1四半期）



上記は参考図。

*1. 調整表は47-48ページをご参照下さい。

主要な5つのビジネスエリアの実質的な成長率は+6%、第1四半期売上収益の約83%

 消化器系疾患 対売上収益比約24% 対前年比+14%	 希少疾患 対売上収益比約20% 対前年比△2%	 血漿分画製剤 (PDT) 対売上収益比約13% 対前年比+19%	 オンコロジー 対売上収益比約14% 対前年比+5%	 ニューロサイエンス 対売上収益比約13% 対前年比△1%	その他 対売上収益比約16% 対前年比△21%		
       	   	     	  	       kenketu glovenin-I KENKETU NONTHRON KENKETU ALBUMIN	     	     	    Magnyl Xefo Ebrantil etc.



消化器系疾患フランチाइズの堅調な成長は腸管選択的なENTYVIO®が牽引

短腸症候群（腸管不全）の明確な治療法として確立



- 医療従事者に向けた医学教育やコミュニケーションを通じて疾患認知が増加
- 成人において治療継続性を高め、小児の受診をさらに促進する機会

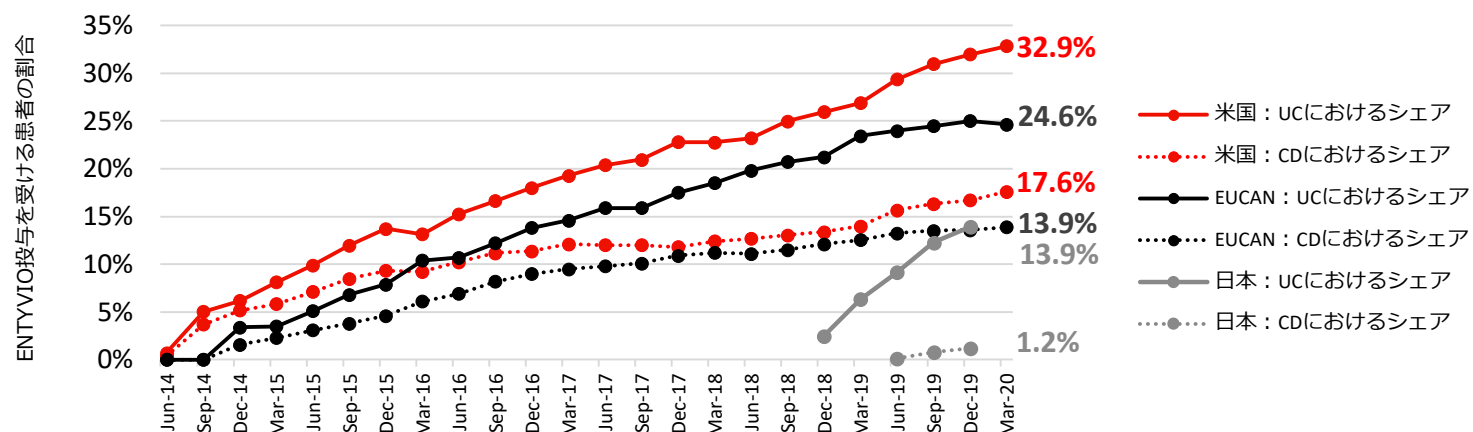
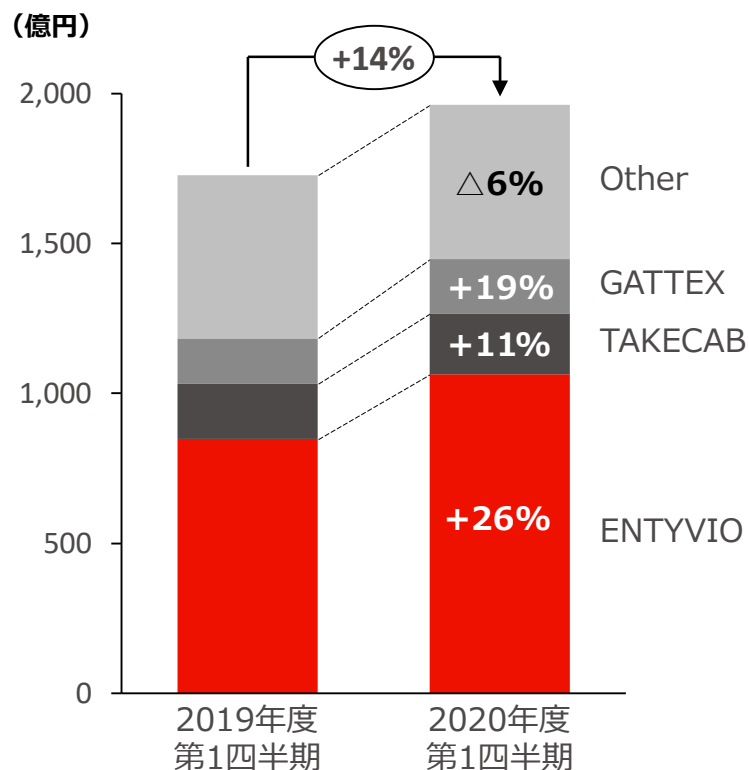
米国・欧州・日本において患者シェアの拡大

- 唯一の消化管選択的IBD治療薬であるEntyvioは、長期に渡る優越性、種々の基準に基づく寛解を示し、そのユニークなデータパッケージ（H2H優越性、リアルワールドエビデンス、内視鏡的・組織学的・貫壁性のアウトカムを含む）により早期制御が可能であり、将来的に病態の進行を抑制する薬剤として潜在的な可能性がある
- 潰瘍性大腸炎におけるアダリムマブとの初めてかつ唯一の直接比較データ（VARSITY）がNEJMに掲載され、有効性プロファイルが処方医に認められた
- 皮下投与製剤について
 - ・ 欧州において2020年5月に潰瘍性大腸炎およびクローン病の適応症で承認取得
 - ・ カナダにおいて2020年4月に潰瘍性大腸炎の適応症で承認取得
 - ・ 米国において2019年12月に受領した審査完了通知（CRL）についてFDAと協議を継続中
- 静脈注射製剤が中国にて2020年3月承認取得、インドにて2020年7月「KYNTELES」の販売名で発売



消化器系疾患 ポートフォリオ

2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長



出所: SHA Medical and Pharmacy Claims data, 2019年12月、2019年度第3四半期までのデータ; EUCAN: 社内推定; 日本: JMDC (2019年9月時点の最新データ)

TAKHZYRO®の力強い実績が継続し、 遺伝性血管性浮腫ポートフォリオの二桁台の成長に貢献

TAKHZYRO®は遺伝性血管性浮腫において予防市場を拡大

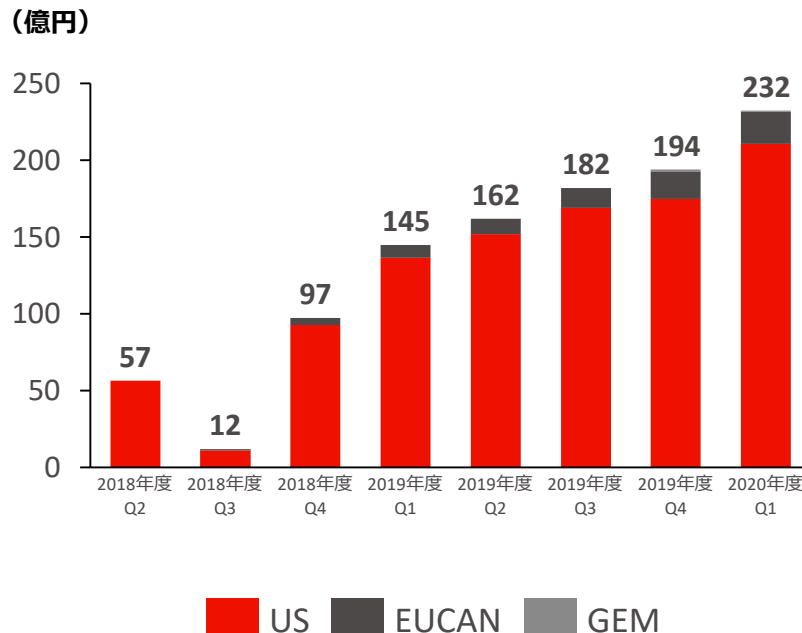
米国:

- 有効性プロファイルにより遺伝性血管性浮腫に対する基礎的治療薬としてTAKHZYROの位置付けを確立
- 遺伝性血管性浮腫におけるTAKHZYROの予防治療での使用拡大、2018年におけるすべての治療患者の50%から2019年には57%へ¹
- TAKHZYROは、タケダ製品への新規患者を増加させている（TAKHZYRO治療患者の50%以上がタケダ製品による治療を受けていない患者¹）

その他の地域:

- ドイツ・イタリア・オーストリア・英国・デンマーク・ブラジル・イスラエル・アラブ首長国連邦での力強い立ち上がり。多くの欧州諸国やカナダ・オーストラリア・クウェートで、初回アクセス制度（イニシャル・アクセス・スキーム）を実施
- 2020年度に20ヶ国以上での上市を予定
- HAE患者の治療投与経験を高めるために設計されたプレフィルドシリンジについてCHMPから肯定的見解（2020年5月）

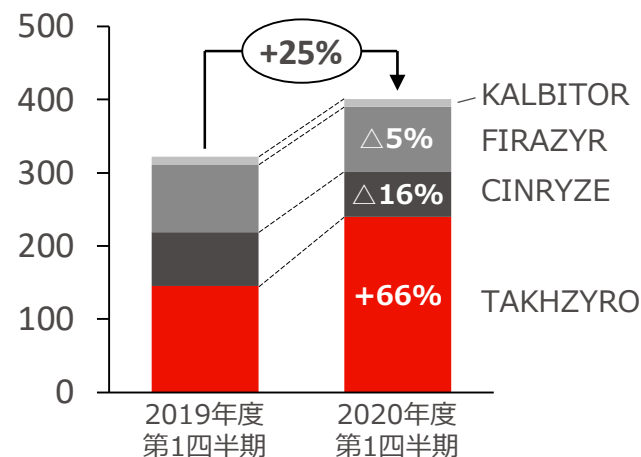
TAKHZYRO上市以降のグローバル売上収益²



遺伝性血管性浮腫

2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長

(億円)



- ・ 力強いTAKHZYROの実績が、遺伝性血管性浮腫ポートフォリオ全体の成長を牽引
- ・ C1インヒビター患者に対する治療の継続を可能にするCINRYZEの安定供給
- ・ FIRAZYRについては、2019年7月（米国）の独占販売期間終了が、2020年度第1四半期の成長率に最も大きな影響を与えた

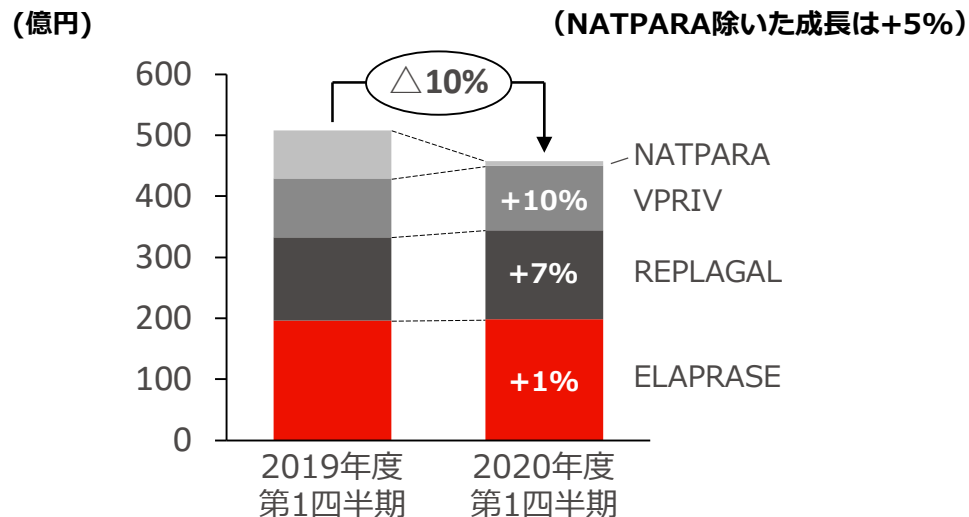
*1. 社内データ

*2. 2018年度第2四半期および第3四半期の売上収益はShire社買収前の数字であり、1米ドル111円（2018年度の期中平均レート）で円貨換算したもの（なお、重要な差異は認められなかった）
注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質的な成長率。

希少代謝性疾患では米国でのNATPARA®回収影響を除き安定した成長 希少血液疾患における競合の影響は想定通り

希少代謝性疾患

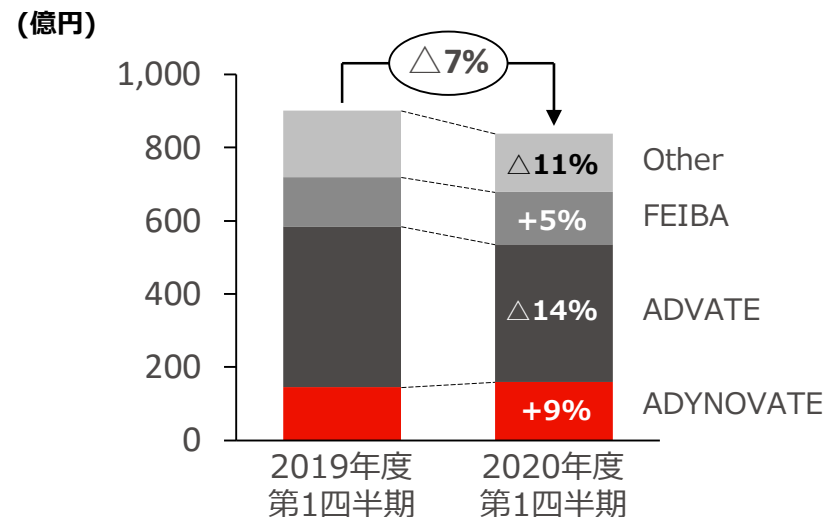
2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長



- 2019年9月の製品回収以降、NATPARAの米国での売上収益は計上されていない。VPRIVおよびREPLAGALの良好な実績により、NATPARAを除く希少代謝性疾患ポートフォリオの実質的な成長率は+5%
- NATPARAの治療中断によって、生命を脅かす合併症などが発現するといったリスクの高い患者さんのために、特別使用プログラム（Special Use Program）を用意
- 当社は、米国におけるNATPARAの供給再開計画について米国食品医薬品局（FDA）と緊密に協議を進めているものの、必要とされるデバイスの変更や製品試験の実施により、供給は2020年以降に遅れることが予想される。その結果、2020年度は米国でのNATPARAの売上収益を見込んでいない

希少血液疾患

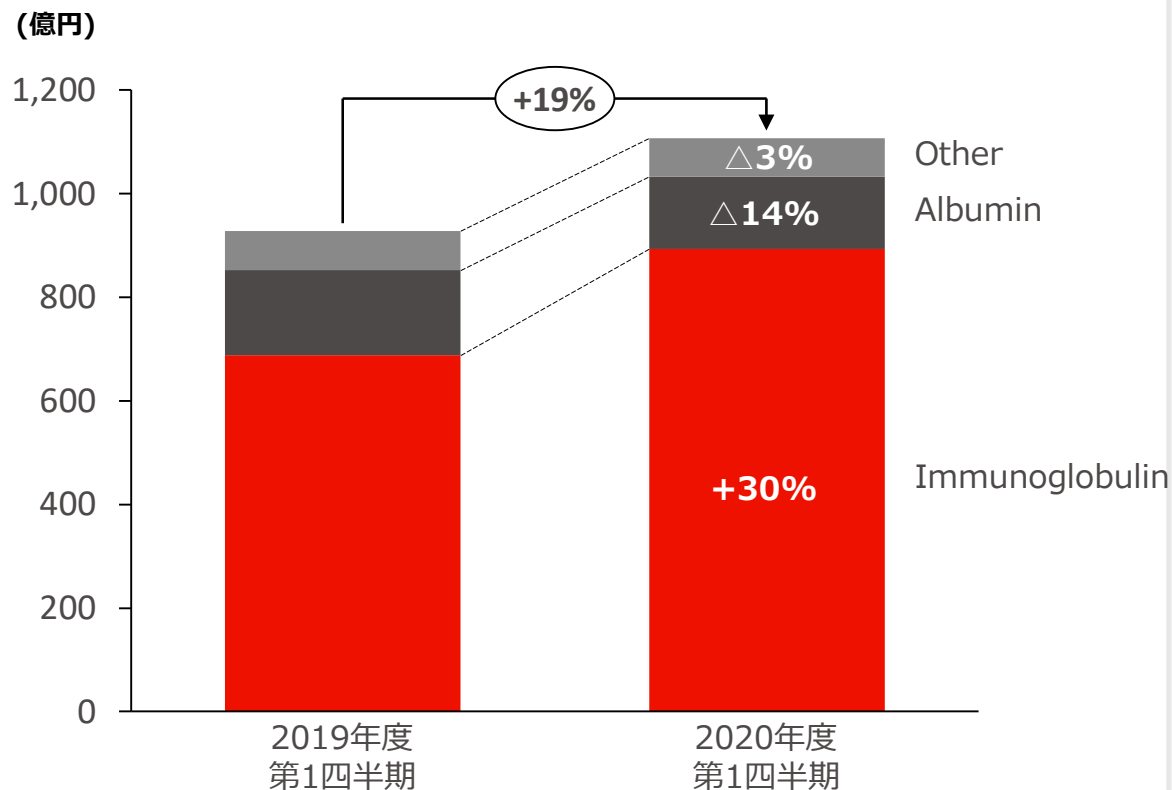
2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長



- 発売国数増加でADYNOVATEは成長（米国外では現在32カ国で発売中）；PROPEL試験データは個別化出血予防の重要性を裏付ける
- ADVATEの減少は、ADYNOVATE拡大と従来型の標準的な半減期セグメントでの価格圧力増加が部分的に起因する
- ADVATEおよびADYNOVATEの競合の影響は国ごとに異なる
- FEIBAは幅広い適応症により、様々な機会を獲得し安定傾向がみられる

血漿分画製剤の免疫疾患治療領域の成長は、GAMMAGARDLIQUIDの米国での力強い需要と世界中での免疫グロブリン皮下注射製剤が牽引

血漿由来の免疫疾患治療ポートフォリオ 2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長



GAMMAGARD LIQUID
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%

Kiovig
Human Normal Immunoglobulin (IVig), 10% Solution

HyQvia
Human Normal Immunoglobulin (10%) Recombinant Human Hyaluronidase

Cuvitru
[Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 20%

- 免疫グロブリン製剤は、米国におけるGammagardLiquidの力強い需要と、皮下注射製剤（SCIG）の継続的な成長により、対前年同期+30%
- アルブミンの売上高は、中国での中断期間明けの期ずれと供給変動の結果により2019年度売上高が強かったため、対前年同期で低下（△14%）、2020年度下期から成長が加速し、通期は二桁台の成長が見込まれる
- その他の血漿分画製剤ポートフォリオは、米国におけるAralastの需要減少と出荷時期のタイミングにより、若干の減少（対前年同期△3%）

血漿収集センターへの投資継続

- ・ 現在、米国に125、米国外に33のセンターを保有。2020年度現在までの間に4センター増加（米国2カ所、オーストリア2カ所）
- ・ 血漿分画製剤の供給および製造能力を2024年まで¹に65%以上増加させるため、運営の効率化および新規センターへ投資する戦略を実行
- ・ COVIDを巡る情勢により、血漿供給の成長時期が後ずれする可能性があるが、全体的な目標に変化はない

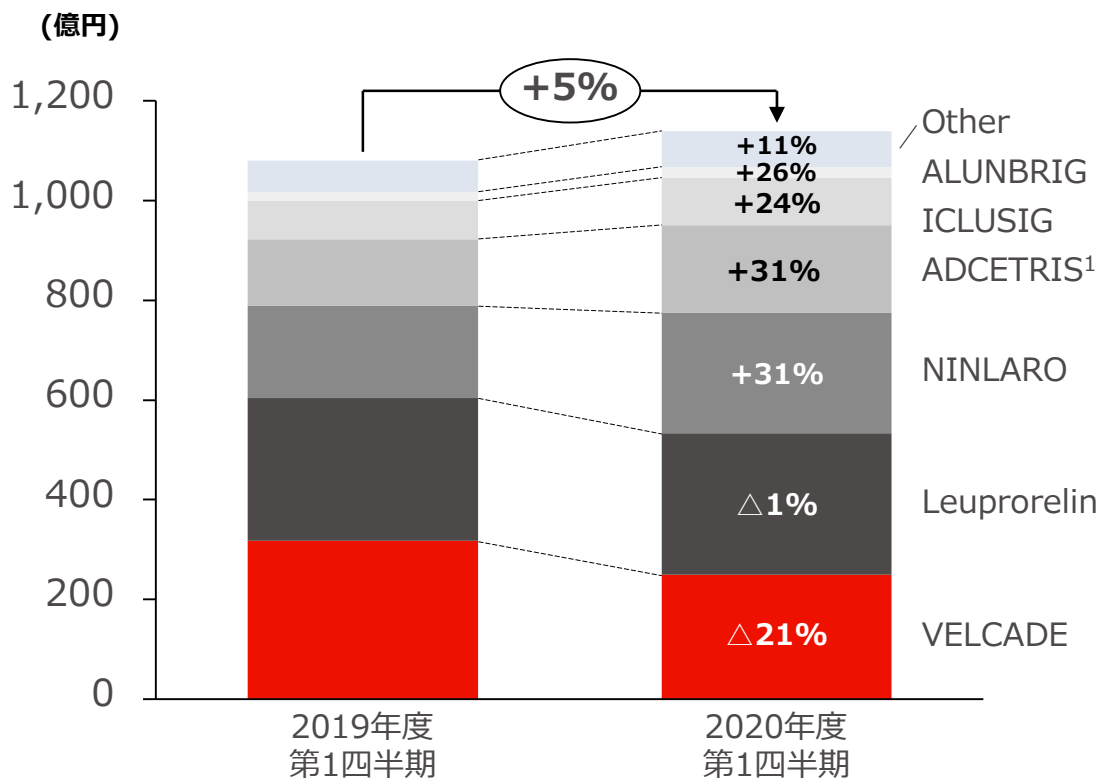
*1. 対2018年度基準比

注: 売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質的な成長率。

力強いオンコロジーポートフォリオは適応拡大を続ける

オンコロジー ポートフォリオ

2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長



米国・欧州での一次治療の適応で承認取得

- ALTA-1L試験の結果に基づいて、2020年5月に米国FDA、2020年4月に欧州委員会により、ALK陽性非小細胞肺がんの一次治療として承認
- 日本において、他のALK阻害剤による治療後に増悪した非小細胞肺がんに対する適応で2020年2月に承認申請



維持療法におけるポジティブデータ

- ASCOでのデータでは、幹細胞移植を受けなかった患者を対象とした一次治療後の維持療法において、プラセボと比較して、増悪または死亡のリスクが34%低下することが示され (TOURMALINE MM4試験)、国内において承認申請



診療を変える可能性のあるデータ読み出し

- ASCO/EHAでのOPTIC中間解析データは、治療困難なCP-CML患者における最適なベネフィット・リスクプロファイルのための投与レジメンを示した



中国での初の承認取得、欧州での新たな効能取得

- 再発・難治性の未分化大細胞リンパ腫またはホジキンリンパ腫に対して、2020年5月に中国で承認取得
- 未治療の未分化大細胞リンパ腫²に対して、2020年5月に欧州で承認取得

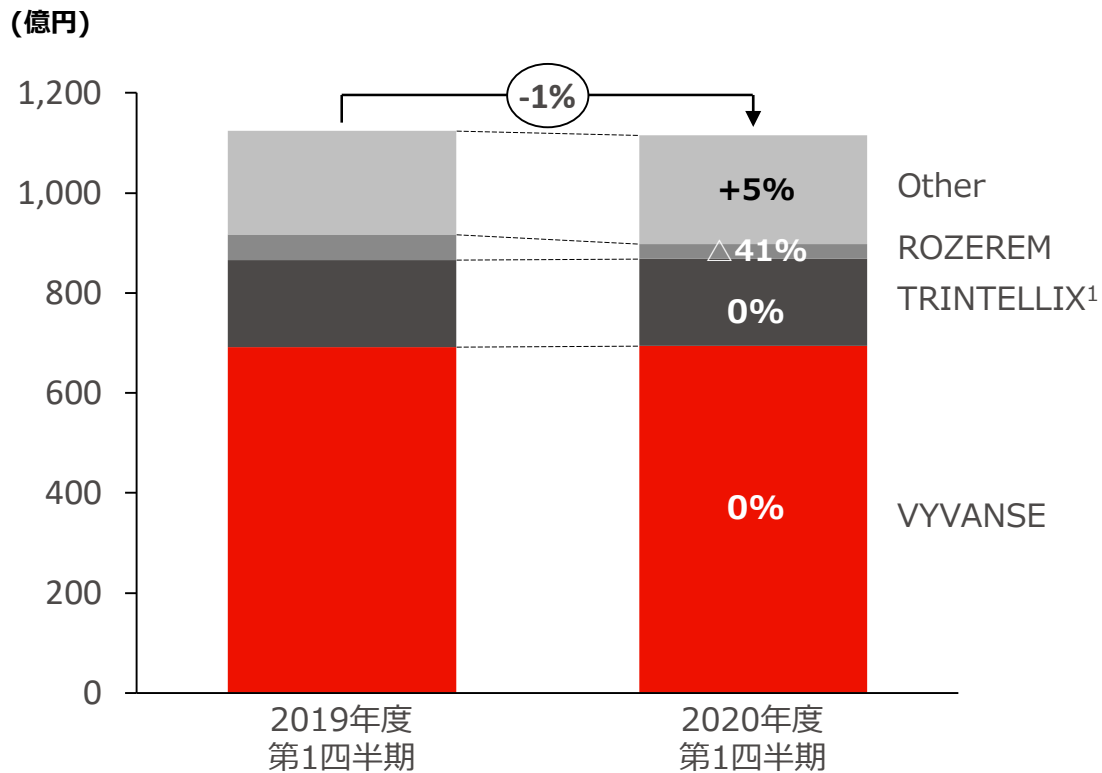
*1. ADCETRISはSeattle Geneticsより導入; 北米外での販売権を保有。

*2. ADCETRISは、欧州委員会より2012年10月に受けていた条件付き承認に続き、2020年5月に全身性未分化大細胞リンパ腫 (sALCL) で適応追加

注: 売上収益の絶対値は国際会計基準 (IFRS) ベースの数字 (財務ベース)、対前年比は実質的な成長率。

ニューロサイエンスのモメンタムはCOVIDによる外出制限により減速

ニューロサイエンス ポートフォリオ 2020年度第1四半期 実質的な売上収益成長



COVIDによる外出制限の結果、
ADHD市場のモメンタムが減速した

- COVID-19に関連した外出制限は、患者の受診、その後の診断を著しく減少させ、小児患者が一時的に投薬を中止する事例が発生。これは、学校の夏季休暇で登校しない状況と似ている
- 欧州での診断患者およびカナダでの立ち上がりが増加



TRINTELLIXはライフサイクルにおける現段階でも、ブランド製品の類似薬の中で上位のポジションを保ち続けている

- 患者さんや医療従事者による認知度の向上および患者さんにフォーカスした投与開始後のリソースの活用増加により、米国のブランド市場における市場シェアの伸びが継続

*1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入；米国と日本で共同販売権を保有。
注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質的な成長率。

グローバルブランド14製品の実質的な売上収益の成長率は+20%

2020年度第1四半期 売上収益

		(億円)	(百万米ドル)	(対前年 実質的)	グローバル ブランド
消化器系疾患	 Entyvio [®] vedolizumab	1,012	942	+25.5%	
	 Takecab [®]	202	188	+10.7%	
	 Gattex [®] (Tadaglutide (tDNA origin) for injection)	175	163	+19.2%	
	 ALOFISEL	0	0	N/A (2018年8月上市)	
希少疾患	 TAKHZYRO [®] (lanadelumab-tyo) injection	232	216	+65.8%	
	 ADYNOVATE [®] Rurioctocog alfa pegol (Recombinant Coagulation Factor VIII)	153	142	+9.4%	
	 Natpara [®]	7	7	△89.8%	
	 elaprased [®] (idursulfase)	176	164	+1.2%	
	 REPLAGAL [®] agalsidase alfa CHANGING THE FACE OF FABRY DISEASE	122	113	+6.5%	
	 VPRIV [®]	93	87	+9.5%	

2020年度第1四半期 売上収益

		(億円)	(百万米ドル)	(対前年 実質的)	グローバル ブランド
血漿分画製剤	IMMUNOGLOBULIN	851	792	+29.8%	
	 GAMMAGARD LIQUIID [®] [Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%  Kiovig [®] Human Normal Immunglobulin (IVIg) 10% Solution			+41.6%	
	 HyQvia [®] Human Normal Immunglobulin (10%) Recombinant Human Hyaluronidase			+4.3%	
	 Cuvitru [®] [Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 20%			+32.7%	
	ALBUMIN/FLEXBUMIN ¹	130	121	△14.3%	
オンコロジー	 NINLARO [®] (ixazomib) capsules	229	213	+31.0%	
	 ADCETRIS [®] brentuximab vedotin	151	140	+31.1%	
	 ALUNBRIG [®] BRIGATINIB 50 mg TABLETS	20	19	+26.4%	
ニューロサイエンス	 Vyvanse [®]	660	614	+0.3%	
	 Trintellix [®] vortioxetine	169	157	△0.3%	

14グローバルブランドの2020年度第1四半期 売上収益合計: 3,080億円 (29億米ドル²) (実質的な成長率+20%)

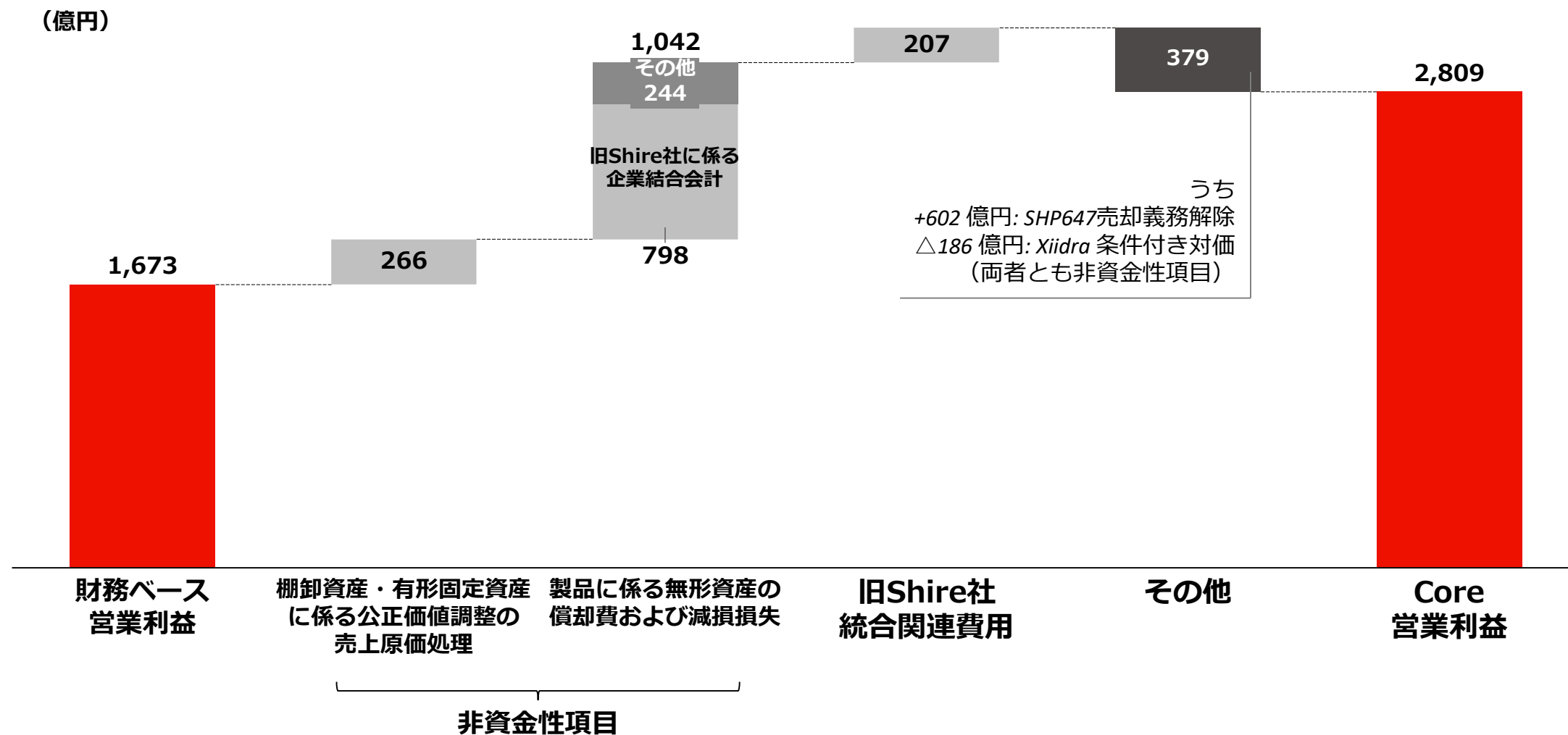
*1. Albumin Glass, Flexbuminおよび献血アルブミンを含む。

*2. 米ドルでの表記は1米ドル107円で換算した参考値。

注: 売上収益の絶対値は国際会計基準 (IFRS) ベースの数字 (財務ベース)、対前年比は実質的な成長率。

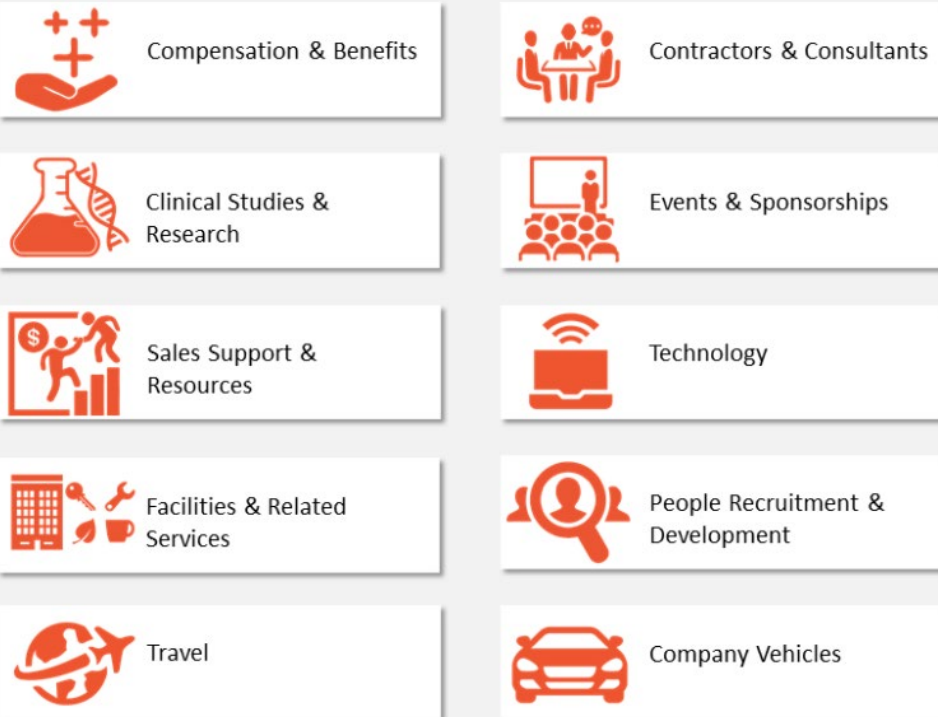
2020年度第1四半期の力強いCore営業利益は、非資金性の企業結合会計上の費用およびその他の買収関連費用を含めた項目を調整したもの

2020年度第1四半期 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整¹



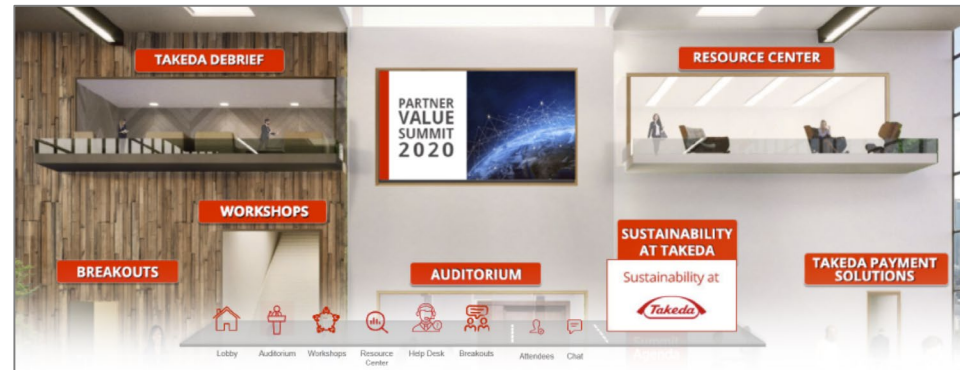
コストシナジーおよび営業経費プラットフォームがさらなるコスト効率化を推進

シナジーパッケージKPIレポート



10のコストパッケージでコストシナジー・営業経費効率化を管理

- 2020年7月に実施した完全バーチャルのパートナー・バリュー・サミット2020にて、患者さんのための価値を推進する購買
 - 2回目を完全バーチャルで実施、150以上のサプライヤーとのサミット
 - 予備的な結果では経費節減1億米ドルの達成ならびに運転資金の改善を見込む
 - 二酸化炭素排出を含むESGに関してサプライヤーと提携

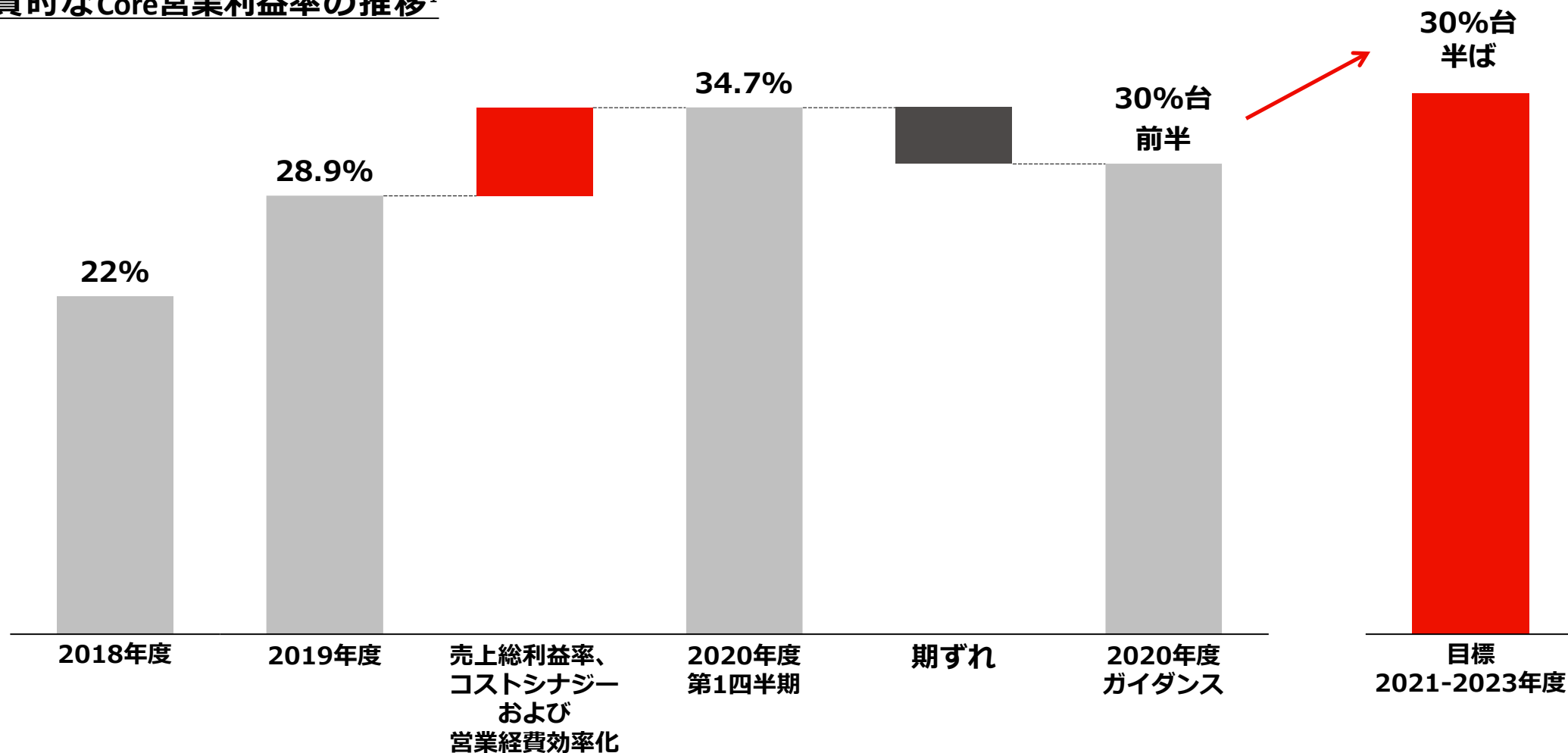


- タケダビジネスソリューションズ（TBS）は規模を活かし、Information Technology（IT）部門と提携して、自動化を推進

- RPA自動化の使用規模を5から70ロボットまで加速することにより、タケダの働き方の変革と生産性の向上を可能に
- デザイン思考を育成し、チームの運営方法を変革する専任の技術向上プログラムを通じた、デジタル・イノベーションへの投資

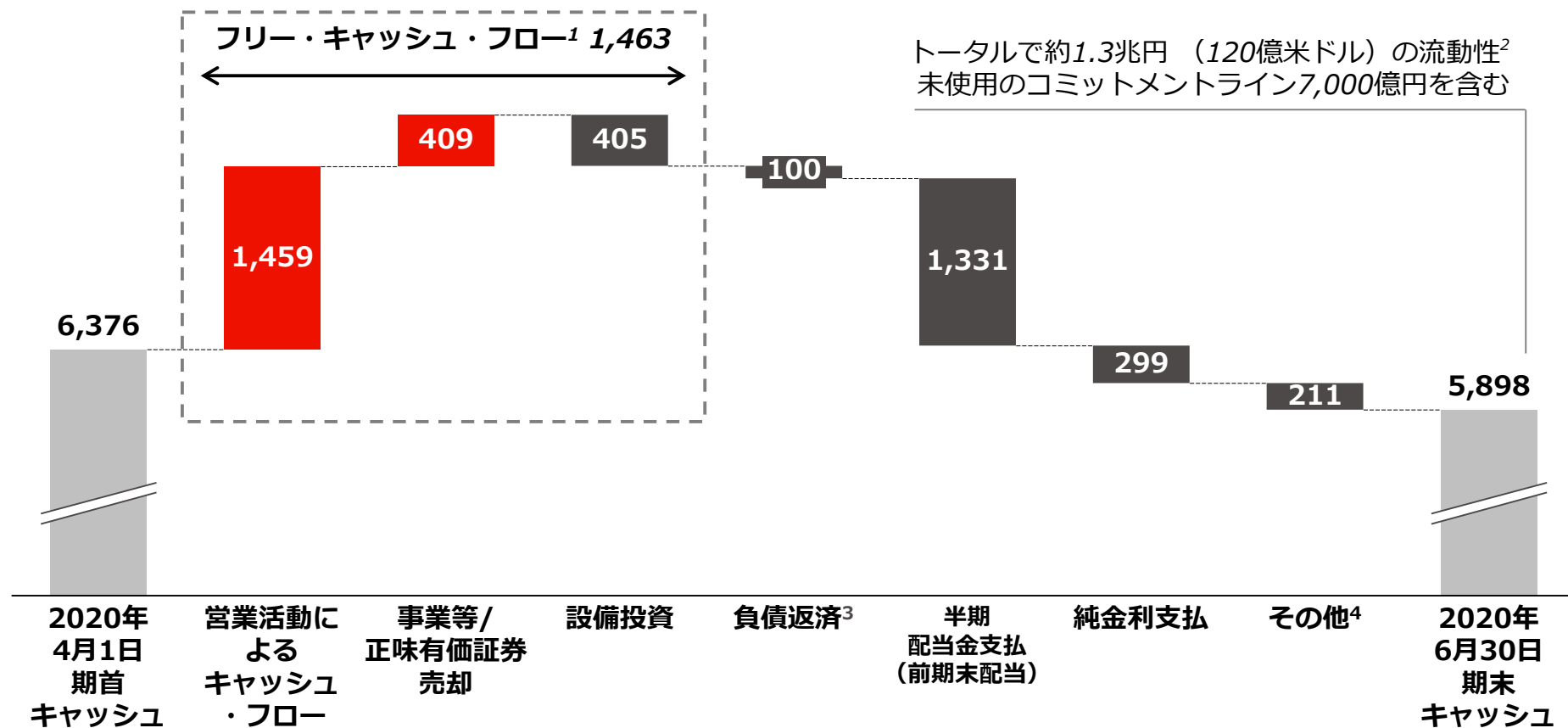
第1四半期の実質的なCore営業利益率は34.7% 通期および中期での利益率目標に向かって順調に進捗

実質的なCore営業利益率の推移¹



第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは対前年同期+21%、 四半期のフリー・キャッシュ・フローは半期配当金支払いを十分カバー

(億円)



*1. 調整表は52ページをご参照下さい。

*2. 2020年6月30日時点の現金および現金同等物（5,898億円）に、7,000億円のコミットメントラインを加えたものと定義。米ドルでの表記は1米ドル107円で換算した参考値。

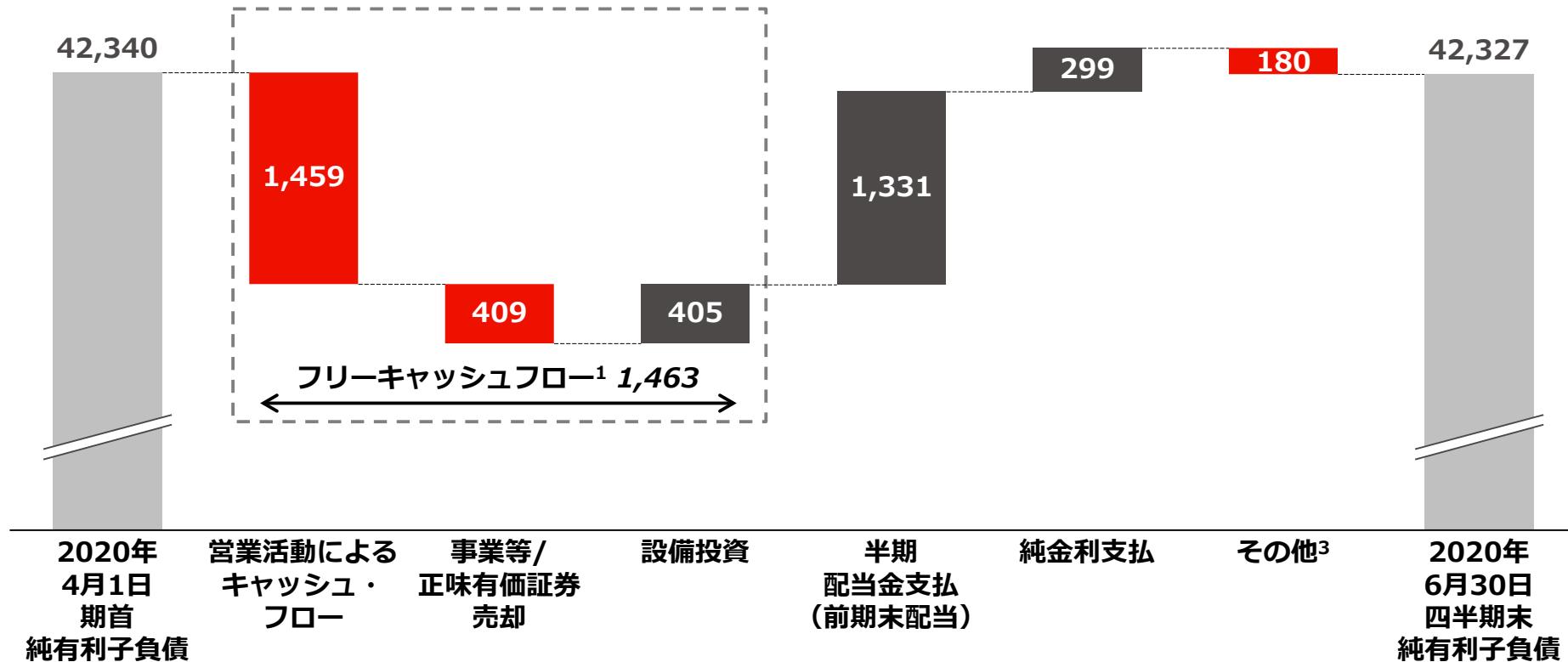
*3. 負債返済の項目はキャッシュ支払金額を記載。

*4. 「その他」の項目は為替影響、リースによる支出、短期借入れ金の純増減額、条件付対価支払いを含む。

半期配当金支払い後でも、純有利子負債/調整後EBITDAが3.8倍から3.7倍へと着実にレバレッジが低下

純有利子負債の変化

(億円)



純有利子負債/
調整後EBITDA²

3.8倍

3.7倍

*1. 調整表は52ページをご参照下さい。

*2. 「調整後EBITDA」は、主に非資金性の項目、一過性費用を調整したもの。調整後EBITDA及び純有利子負債調整表に関する定義は44ページ、調整表は53-54ページをご参照下さい。
期初および期末の純有利子負債は12ヶ月の平均レートで計算されたもの。

*3. 負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整は、負債償却、円貨換算に係る為替影響を含む。

100億米ドルのノン・コア資産売却目標に向けて進捗中 不動産および有価証券の売却によるキャッシュを創出

ノン・コア資産売却 (2019年4月からの公表)

譲渡完了

一部の一般医薬品及びノン・コア資産
のポートフォリオ

XIIDRA	最大 53億米ドル	☑
中近東・アフリカ	2億米ドル	☑
ロシア/CIS	6.6億米ドル	☑
ラテンアメリカ	8.25億米ドル	
欧州	最大 6.70億米ドル	
アジア・パシフィック	最大 2.78億米ドル	

現在までのトータル

最大 約80億米ドル

目標	100億米ドル
----	---------

不動産および有価証券の売却¹ (2020年度見込み)

現金受取り

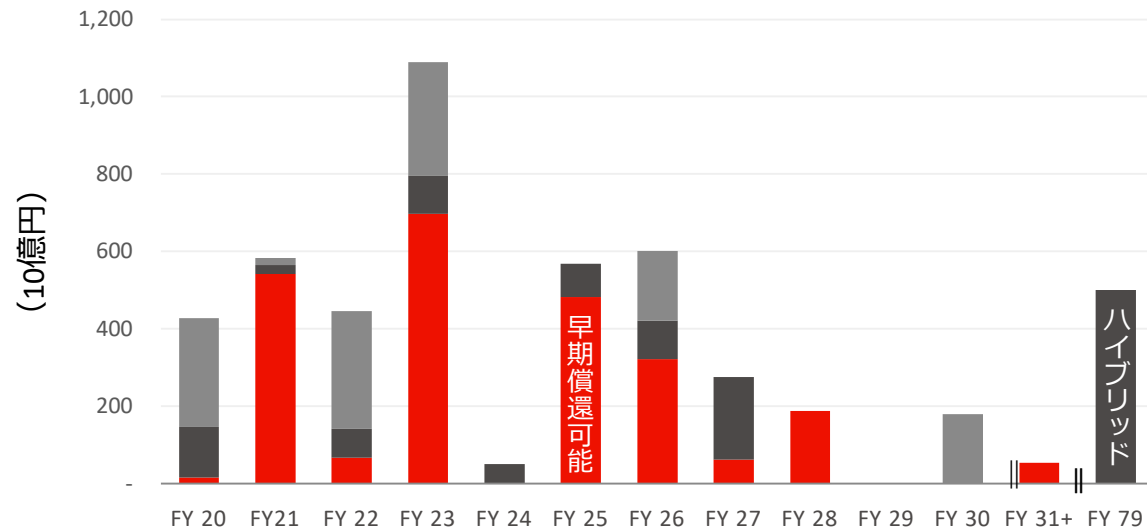
有価証券	4.1億米ドル	☑
湘南アイパーク 信託設定・リースバック	約3.5億米ドル	

2020年度目標	7億米ドル以上
----------	---------

2020年6月に実施したレバレッジに影響を与えない負債の借換えにより、 レバレッジ低下目標を引き続き維持しつつ低コストでの負債返済期間を延長

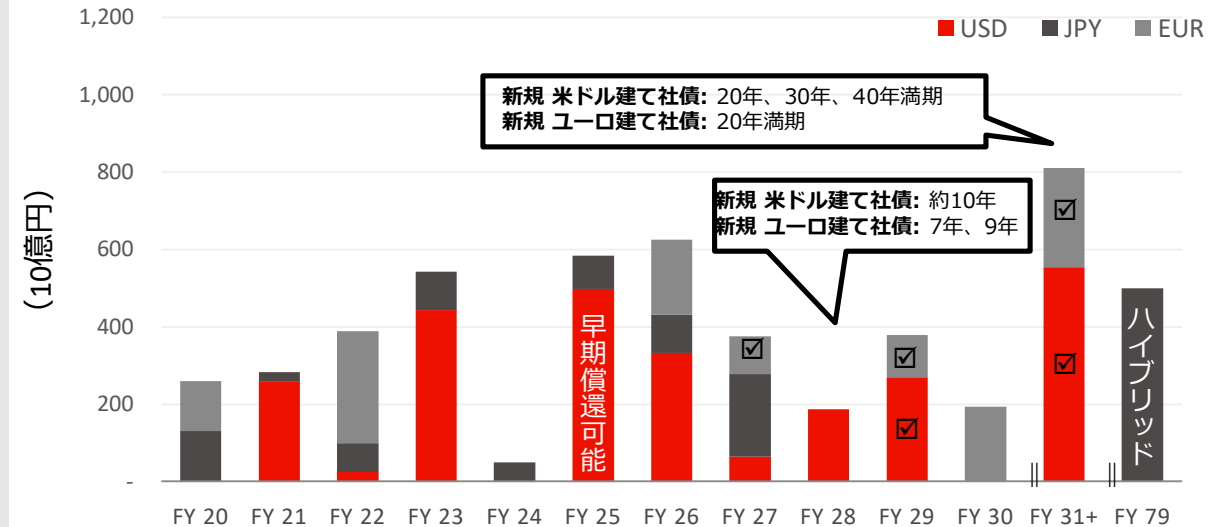
☑ 最近発行されたシニア債

2020年3月²



平均年間金利：約2.1%、加重平均満期：約10年

2020年6月（調整済）^{1,2}



平均年間金利：約2%、加重平均満期：約14年

2020年7月に発行した約110億米ドルのレバレッジに影響を与えない低コストな米ドル/ユーロ調達
BBB格の米ドル債として記録的な低表面利率³

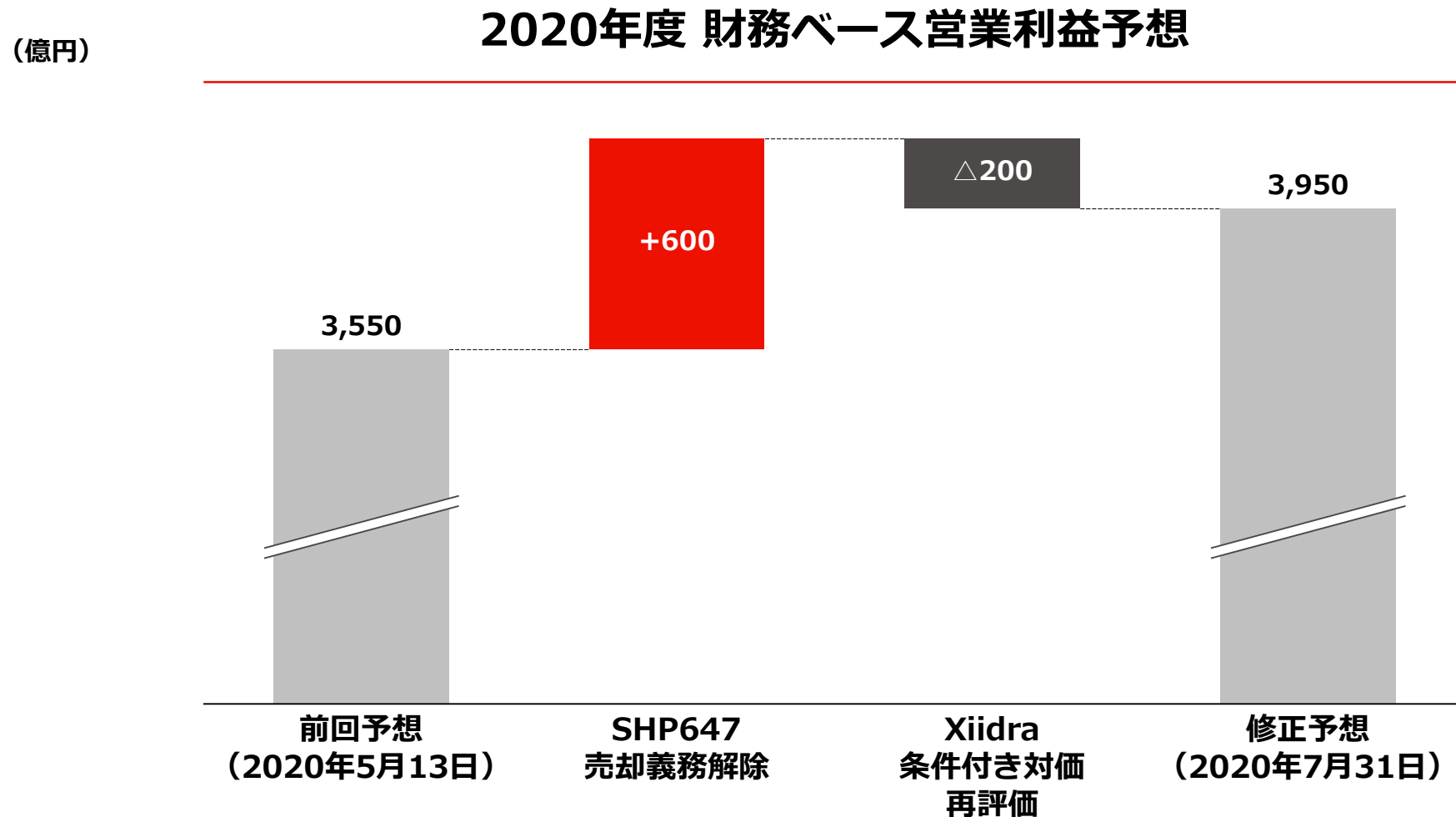
2021～2023年度までに純有利子負債/調整後EBITDAの2倍というレバレッジ低下目標に向けて順調に進捗中

*1. 2020年6月の負債満期プロファイルは、2020年満期12.5億ユーロ債および2021年満期24億米ドル債の進行中のメイク・ホール条項の完了を想定（2020年8月の完了予定）、2020年7月9日に発行されたシニア債を含む

*2. 負債満期プロファイル（2020年3月末時点）における為替レート：109円/米ドル、119円/ユーロ、2020年6月末レート：108円/米ドル、121円/ユーロ

*3. 企業発行体によるBBB格の20年満期米ドル債およびBBB格の40年満期米ドル債の最低表面利率を達成。（バンク・オブ・アメリカによる過去10年データサーチによる）

第1四半期に公表された一過性項目により財務ベース予想を上方修正



財務ベースの通期業績予想の上方修正； Coreおよび実質ベースのガイダンスは変更なし

(億円)	2020年度 前回予想 (2020年5月)	2020年度 修正予想 (2020年7月)	増減	実質ベース ² (マネジメントガイダンス) 2020年5月予想から変更なし
売上収益	32,500	32,500	-	一桁台前半の成長率 (%)
財務ベースの営業利益	3,550	3,950	+400	
CORE営業利益 ¹	9,840	9,840	-	一桁台後半の成長率 (%)
CORE営業利益 ¹ 率	30.3%	30.3%	-	30%台前半
財務ベース EPS (円)	39	59	+20 yen	
CORE EPS (円)	420	420	-	10%台前半の成長率 (%)
1株当たり配当金 (円)	180	180	-	

2020年度ガイダンスにおけるその他の重要な仮定：

(1) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行拡大に伴い、当社の事業活動は前述の通り様々に影響を受けているものの、現時点までに業績に対する重大な影響は生じておりません。当社は、COVID-19は2020年度の当社業績に対して重大な影響を及ぼすことはないとの現時点で入手可能な情報に基づき考えており、当社の2020年度業績予想はこの考え方を反映しています。しかしながら、COVID-19を取り巻く状況は引き続き非常に流動的であり、新規または追加的な流行拡大や、主要市場におけるロックダウンや屋内退避命令の新規の措置や延長、その他政府による対策など、2020年度中の進展によっては、当社製品の需要減少やサプライチェーンに関連する問題の発生、または臨床試験の大幅な遅延など当社事業に深刻な影響を与える可能性があります。このような事態が生じた場合、当社事業や経営成績、財政状態に追加的な影響が及び、また、当社の2020年度業績は予想から大きく乖離する可能性があります。

(2) 「ベルケイド」については、2020年度において、505(b)2申請に基づく皮下投与の新たな競合品の米国上市を想定しておりません。

(3) 前回公表予想・マネジメントガイダンスを開示しました2020年5月13日の時点では、事業等の売却については、公表済みの案件以外の将来の売却可能性の影響を考慮しておりませんでした。今回の修正予想³では、当第1四半期に計上した一時的な事象に伴う重要な損益影響のみを追加的に考慮しております。

注： 修正予想の詳細については、55-57ページをご参照下さい。

*1. 定義は43ページ、2020年度の業績予想の調整表は57ページをご参照下さい。

*2. 実質的な成長率は2019年度内に売却された資産と2020年度に売却完了する見込みの公表済みの資産売却を調整し、固定為替レート（2019年度期中平均レート）を適用。

定義は43ページをご参照下さい。実質的な計数値は、マネジメント業績評価指標（KPIs）のベースとなる。

財務目標に向けた進捗

業績目標の達成



グローバルブランド14製品の実質的な売上高成長+20%により力強い第1四半期業績を達成、実質的な売上収益+0.9%¹、主要な5つのビジネスエリアの実質的な成長は+6%

シナジー・利益率



2020年度第1四半期の実質的なCore営業利益率は、コストシナジーおよび営業経費効率化により34.7%²と、中期的に業界大手の水準に向けて成長を継続

ポートフォリオへのフォーカス



2019年4月以降、最大80億米ドルとなる6つのノン・コア資産の売却について公表、ノン・コア資産売却は100億米ドルの目標に向けて継続

強固な財務



過去最低の表面利率³で2020年7月9日に約110億米ドル/ユーロ建ての負債借換えを実行、レバレッジ低下目標が順調に進捗する一方で、負債返済期間を延長

急速なレバレッジ低下



半期配当金支払い後でも純有利子負債/調整後EBITDA⁴は3.8倍から3.7倍に低下、2021年度から2023年度までに2倍とする目標を確認

*1. 調整表は47-48ページをご参照下さい。

*2. 定義は43ページ、調整表は48ページをご参照下さい。

*3. 企業発行体によるBBB格の20年満期米ドル債およびBBB格の40年満期米ドル債の最低表面利率を達成（バンク・オブ・アメリカ調べ）

*4. 定義は44ページ、調整表は53-54ページをご参照下さい。

投資家向け開催予定イベント

**2020年度第2四半期決算発表
カンファレンスコール**

10月29日（木）

**WAVE 1 パイプライン
市場機会に関するコール**

2020年度下期（日程調整中）

質疑応答



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



アンドリュー・プランプ
リサーチ&デベロップメント
プレジデント



コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル
オフィサー



岩崎 真人
ジャパン ファーマ
ビジネス ユニット
プレジデント

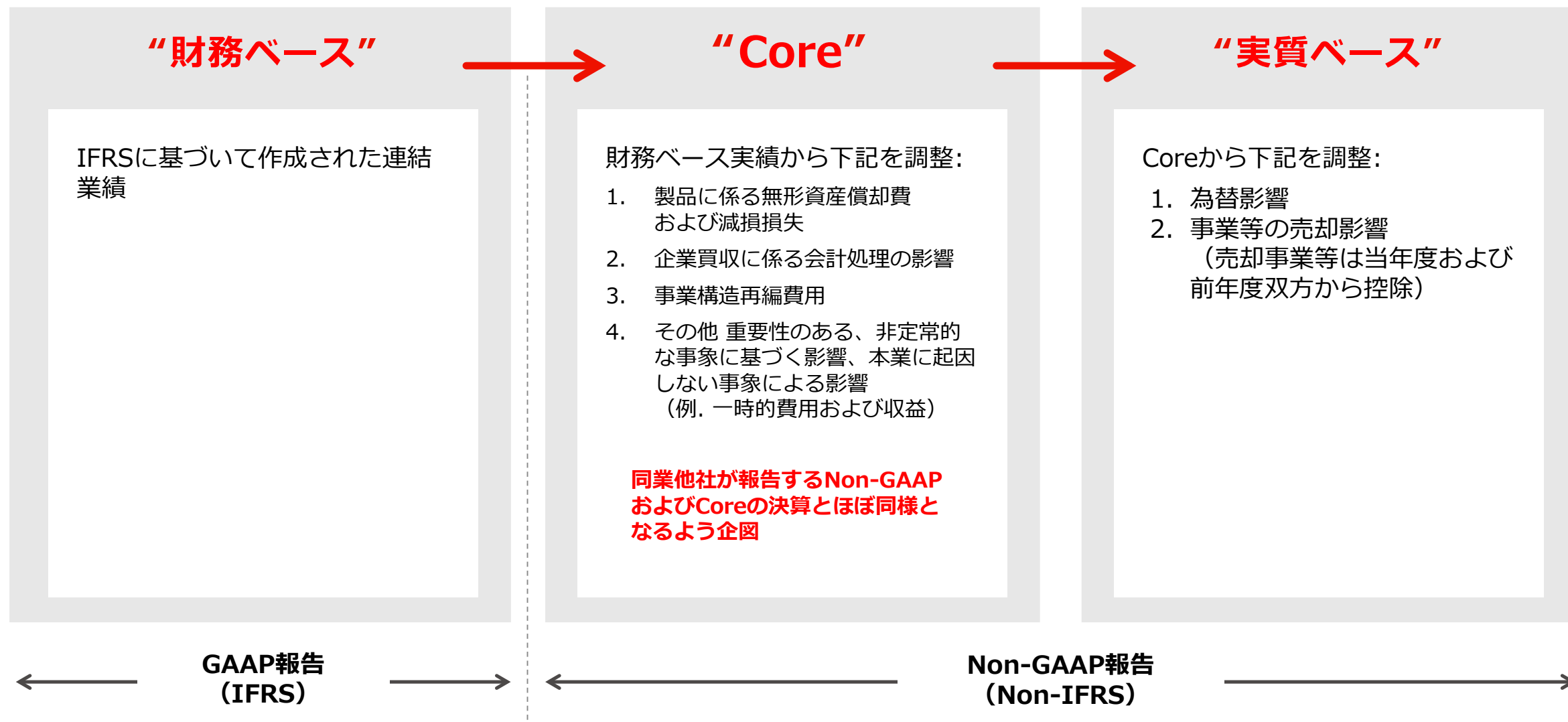


ジュリー・キム
プラズマ ディライブド
セラピーズ ビジネスユニット
プレジデント

APPENDIX



タケダの開示指標（定義変更なし）



「Core」と「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「実質的な成長」（Underlying Growth）の概念を採用しております。

「実質的な成長」は、当年度と前年度（四半期もしくは年間）の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、年間計画レートを用いた為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（ノン・コア）事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「実質的な成長」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考えています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

当社は、「**Underlying Revenue Growth**」（実質的な売上収益の成長）、「**Underlying Core Operating Profit Growth**」（実質的なCore営業利益の成長）および「**Underlying Core EPS Growth**」（実質的なCore EPSの成長）を重要な財務指標としています。

実質的な売上収益は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

実質的なCore営業利益は、為替レートを一定として、Core営業利益（以下に定義）に、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

Core営業利益は、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益およびその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない（ノン・コア）事象による影響を調整します。

実質的なCore EPSの算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（ノン・コア）事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動（時間的価値の変動を含む）影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自己株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

「EBITDA」と「調整後EBITDA」の定義

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難にし得る事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得ます。

EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項、例えば、事業売却の影響等を必ずしも除外しておりません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益（損失）と同視してはならず、また、これらに代わるものとしてとらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

EBITDA及び調整後EBITDA

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の純利益を指します、また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）、金融収益・費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションのスライド54をご参照ください。

2020年度 第1四半期（4-6月）の財務ベース実績

(億円)	2019年度 第1四半期 ^{*1} (4-6月)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	対前年同期	
売上収益	8,491	8,019	△473	△5.6%
売上原価	△2,918	△2,381	+537	+18.4%
売上総利益	5,573	5,638	+64	+1.2%
対売上収益比率	65.6%	70.3%		+4.7pp
販売費及び一般管理費	△2,392	△2,024	+368	+15.4%
研究開発費	△1,169	△1,068	+100	+8.6%
製品に係る無形資産償却費	△1,056	△1,023	+33	+3.1%
製品に係る無形資産減損損失	△161	△19	+142	+88.2%
その他の営業収益	67	637	+571	+856.1%
その他の営業費用	△410	△468	△58	△14.1%
営業利益	452	1,673	+1,221	+270.4%
対売上収益比率	5.3%	20.9%		+15.5pp
金融収益	87	196	+109	+126.2%
金融費用	△461	△468	△8	△1.7%
持分法による投資損益	23	△98	△121	-
税引前当期利益	101	1,303	+1,202	-
当期利益（親会社の所有者持分）	70	825	+755	-
非支配持分	0	0	△0	△65.0%
当期利益	70	825	+755	-
基本的EPS（円）	5 円	53 円	48 円	-

^{*1} 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。
この結果、2019年度第1四半期の損益計算書を遡及修正しております。

2020年度 第1四半期（4-6月）のCoreベース実績

(億円)	2019年度 第1四半期	2020年度 第1四半期	対前年比
売上収益	8,491	8,019	△5.6%
売上総利益率	74.5%	73.6%	△0.9pp
営業経費	-3,500	-3,094	△11.6%
対売上収益比率	41.2%	38.6%	△2.6pp
CORE営業利益¹	2,830	2,809	△0.7%
Core営業利益 ¹ 率	33.3%	35.0%	+1.7pp
税率	21.7%	24.8%	+3.1pp
CORE当期利益	1,984	1,906	△3.9%
CORE EPS (円)	128 yen	122 yen	△5 yen

2020年度第1四半期（4-6月）の 財務ベース売上収益から実質的な売上収益の調整

（億円）	2019年度 第1四半期 （4-6月）	2020年度 第1四半期 （4-6月）	対前年同期	
売上収益	8,491	8,019	△472	△5.6%
為替影響 ^{*1}				+4.4pp
事業等の売却影響 ^{*2}				+2.1pp
XIIDRA				+1.1pp
中近東・アフリカおよびロシア/CIS				+0.8pp
TACHOSIL				+0.1pp
その他				△0.1pp
実質的な売上収益の成長				+0.9%

^{*1} 為替影響は、2019年度および2020年度に、2019年度の計画レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を適用して算出しています。

^{*2} 主な調整項目は以下の通りです。

- ・ 2019年7月に売却が完了した「XIIDRA」（ドライアイ治療剤）の2019年度第1四半期の売上を控除して調整しております。
- ・ 2020年3月に売却が完了した中近東・アフリカ諸国、およびロシア、ジョージアなどの独立国家共同体の国々における一部の一般用医薬品およびノン・コア資産に係る2019年度第1四半期の売上収益を控除して調整しております。
- ・ 2019年5月にEthicon社へ売却することについて合意した「TACHOSIL」（手術用パッチ剤）の売上を控除して調整しております。2020年4月に同社との譲渡契約は解除されましたが、当社は引き続き、売却戦略・レバレッジ低下戦略の一環として売却の機会を検討していくことから、「TACHOSIL」に係る2020年度第1四半期と2019年度第1四半期の売上を控除して調整するものです。
- ・ 売却に合意したことを公表し、2020年12月までに売却の完了を予定する案件についても、売却予定製品に係る2020年度第1四半期と2019年度第1四半期の売上を控除して調整しております。

2020年度第1四半期（4-6月） 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整						Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Growth (実質ベースの成長)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益／費用	シャイアー社統合費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	8,019							8,019	492	△163	+0.9%
売上原価	△2,381				266			△2,115	△136	47	
売上総利益	5,638				266			5,903	356	△116	
販売費及び一般管理費	△2,024			0	△3			△2,026	△114		
研究開発費	△1,068			△1	1			△1,068	△35		
製品に係る無形資産償却費	△1,023	225			798			-			
製品に係る無形資産減損損失	△19	19						-			
その他の営業収益	637		△32		△602	△4		-			
その他の営業費用	△468		74	208			186	-			
営業利益 対売上収益比率	1,673 20.9%	244	42	207	460	△4	186	2,809 35.0%	207	△116	+11.2% 34.7%*
金融損益	△272				27		△38	△283	△9		
持分法損益	△98					106		8	△1		
税引前当期利益	1,303	244	42	207	487	102	148	2,534	197	△116	
法人所得税費用	△478	△59	9	△36	△33	△31	0	△627	△26	28	
非支配持分	△0							△0	0		
当期利益	825	185	51	172	454	71	148	1,906	170	△88	
EPS（円）	53							122	11	△6	+8.7%
株式数（百万）	1,559							1,559			1,558

* 実質的なCore営業利益率

2019年度第1四半期（4-6月）

財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース *1	財務ベースからCoreへの調整						Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業収益／ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響*1	テバ合併会社 に係る 会計処理 影響	その他		為替影響	事業等の 売却影響	
売上収益	8,491							8,491	117	△336	
売上原価	△2,918				757			△2,161	△30	62	
売上総利益	5,573				757			6,330	87	△274	
販売費及び一般管理費	△2,392			8	11			△2,374	△30		
研究開発費	△1,169			43	△1			△1,127	△5		
製品に係る無形資産償却費	△1,056	230			826			-			
製品に係る無形資産減損損失	△161	161						-			
その他の営業収益	67		△60			△7		-			
その他の営業費用	△410		94	316				-			
営業利益	452	391	34	367	1,592	△7		2,830	51	△274	
対売上収益比率	5.3%							33.3%			31.5%
金融損益	△374				45		3	△326	11		
持分法損益	23					6		30	△0		
税引前当期利益	101	391	34	367	1,637	△1	3	2,533	62	△274	
法人所得税費用	△31	△71	△81	△70	△296	0	△0	△549	△10	66	
非支配持分	△0							△0	△0		
当期利益	70	320	△47	297	1,341	△0	3	1,984	52	△208	
EPS（円）	5							128	3	△13	117
株式数（百万）	1,556							1,556			1,558

*1 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第1四半期の損益計算書を遡及修正しております。

2019年度 財務ベースからCore/Underlying Coreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益／費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	32,912								32,912	1,024	△305	
売上原価	△10,898				1,995				△8,903	△279	50	
売上総利益	22,014				1,995				24,009	744	△255	
販売費及び一般管理費	△9,647			55	24				△9,568	△290		
研究開発費	△4,924			104	1				△4,819	△89		
製品に係る無形資産償却費	△4,121	870			3,251				-			
製品に係る無形資産減損損失	△433	433							-			
その他の営業収益	602		△460				△142		-			
その他の営業費用	△2,487		1,133	1,354					-			
営業利益 対売上収益比率	1,004 3.1%	1,303	673	1,512	5,271		△142		9,622 29.2%	365	△255	28.9%
金融損益	△1,372			71	144			△201	△1,357	53		
持分法損益	△240						322		82	△0		
税引前当期利益	△608	1,303	673	1,583	5,416		180	△201	8,347	418	△255	
法人所得税費用	1,050	△317	△108	△292	△982	△946	△55	△675	△2,324	△100	59	
非支配持分	△0								△0			
当期利益	442	987	565	1,291	4,434	△946	125	△876	6,022	318	△196	
EPS (円)	28								387	21	△13	395
株式数 (百万)	1,557								1,557			1,555

2018年度 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース *1	財務ベースからCoreへの調整							Core
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業収益／ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響*1	テバ合併会社 に係る 企業結合会計 影響	投資有価証券／ 固定資産 売却益	その他	
売上収益	20,972								20,972
売上原価	△6,517				738				△5,780
売上総利益	14,455				738				15,193
販売費及び一般管理費	△7,176			238	6				△6,932
研究開発費	△3,683			16					△3,667
製品に係る無形資産償却費	△1,700	955			745				-
製品に係る無形資産減損損失	△86	86							-
その他の営業収益	1,599		△409			△304	△886		-
その他の営業費用	△1,032		435	596					-
営業利益	2,377	1,041	26	850	1,489	△304	△886		4,593
対売上収益比率	11.3%								21.9%
金融損益	△664			181	40			23	△420
持分法損益	△436					535			98
税引前当期利益	1,276	1,041	26	1,031	1,529	231	△886	23	4,272
法人所得税費用	75	△255	△40	△123	△373	△71	302	△575	△1,059
非支配持分	1								1
当期利益	1,352	786	△14	908	1,156	160	△584	△552	3,214
EPS (円)	141								334
株式数 (百万)	961								961

*1 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2018年度の損益計算書を遡及修正しております。

フリー・キャッシュ・フロー

(億円)	2019年度 第1四半期 ^{*1} (4-6月)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	対前年同期	
当期利益	70	825	+755	+1,073.3%
減価償却費、償却費及び減損損失	1,678	1,490	△188	
運転資本増減（△は増加）	△319	△534	△214	
法人税等の支払額	△597	△515	+82	
その他	375	191	△184	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,208	1,459	+251	+20.8%
有形固定資産の取得による支出	△299	△231	+67	
有形固定資産の売却による収入	1	0	△1	
無形資産の取得による支出	△131	△173	△42	
投資の取得による支出	△31	△35	△4	
投資の売却、償還による収入	145	444	+300	
フリー・キャッシュ・フロー	893	1,463	+571	+64.0%

^{*1} 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第1四半期の損益計算書を遡及修正しております。

純有利子負債/調整後EBITDA

純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2019年度 第1四半期 (4-6月)
現金および現金同等物 ^{*1}	5,898
貸借対照表上の負債簿価	△50,750
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整 ^{*2}	2,500 25
有利子負債 ^{*3}	△48,225
純有利子負債	△42,327
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	3.7 x
調整後EBITDA	11,344

キャッシュの純増減

(億円)	2019年度 第1四半期 (4-6月)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	対前年同期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,208	1,459	+251	+20.8%
有形固定資産の取得による支出	△299	△231		
有形固定資産の売却による収入	1	0		
無形資産の取得による支出	△131	△173		
投資の取得による支出	△31	△35		
投資の売却、償還による収入	145	444		
事業取得による支出	△47	—		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増減額	△5,002	△100		
長期借入金の返済による支出	—	△100		
社債の発行による収入	4,962	—		
利息の支払額	△312	△302		
配当金の支払額	△1,327	△1,331		
その他	△152	△93		
現金の増減額（△は減少）	△985	△462	+523	+53.1%

*1 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含む。

*2 調整後EBITDA計算と整合させるため、外貨建て負債の換算に用いる為替レートを月末レートから平均レートに変更して調整している。

*3 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。
また、負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整には、負債償却と為替影響を含む。

当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

(億円)	2019年度 第1四半期 ^{*1} (4-6月)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2020年度 LTM ^{*2}
当期利益	70	825	1,198
法人所得税費用	31	478	△604
減価償却費及び償却費	1,504	1,416	5,748
純支払利息	368	307	1,317
EBITDA	1,973	3,026	7,660
減損損失	174	75	919
その他の営業収益・費用 (減価償却費、償却費及びその他の非資金項目を除く)	328	△244	669
金融収益・費用(純支払利息を除く)	6	△35	△47
持分法による投資損益	△23	98	361
その他の調整項目			
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	719	265	1,456
Shire社買収に係る費用	6	0	48
その他の費用 ^{*3}	88	92	279
調整後EBITDA	3,271	3,276	11,344

^{*1} 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第1四半期の損益計算書を遡及修正しております。

^{*2} 2020年6月30日までの過去12ヶ月(LTM: Last Twelve Months)

^{*3} 株式報酬にかかる非資金性の費用、Shire社買収後に優先順位を下げたパイプラインに係る非定期的なプログラム中止コスト、売却した製品に係るEBITDAの調整を含みます。

2020年度修正業績予想（詳細）

(億円)		2020年度 前回公表予想 (2020年5月13日)	2020年度 今回公表予想 (2020年7月31日)	対前回公表予想		増減
財務ベース	売上収益	32,500	32,500	-	-	
	売上原価	N/D ¹	N/D ¹			
	研究開発費	△4,470	△4,470	-	-	
	製品に係る無形資産償却費	△4,070	△4,070	-	-	SHP647売却に関する当社義務の欧州委員会による解除に伴う影響を反映。臨床試験プログラムの中止コストなど将来発生が見込まれるSHP647の関連費用の変動影響をこれまで計上していた当該負債の見積りに反映した結果、2020年度第1四半期に602億円の益を計上。
	製品に係る無形資産減損損失	△500	△500	-	-	
	その他の営業収益	580	1,180	+600	+103.4%	
	その他の営業費用	△1,430	△1,630	△200	△14.0%	Novartis社の欧州におけるXIIDRA販売許可申請の取り下げに伴う影響を反映。条件付対価を公正価値にて再測定し、2020年度第1四半期に186億円の損失を計上。
	営業利益	3,550	3,950	+400	+11.3%	
	金融費用	△1,530	△1,530	-	-	主に武田テバファーマ株式会社において2020年第1四半期に認識された一部資産の減損損失約100億円の持分法投資損失を反映。
	税引前当期利益	2,000	2,300	+300	+15.0%	
	当期利益	600	920	+320	+53.3%	
	EPS (円)	39 円	59 円	+20 円	+52.9%	
	Core営業利益 ²	9,840	9,840	-	-	
	Core EPS (円)	420 円	420 円	-	-	
	円/ドル	109 円	109 円	-	-	
	円/ユーロ	120 円	120 円	-	-	

*1. 非開示 (Not Disclosed)

*2. 調整表は58ページをご参照下さい。

2020年度Core営業利益調整項目、キャッシュ・フロー・ガイダンス、その他見通しの主な前提

Core営業利益調整項目

(億円)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2020年度 修正業績予想 (2020年7月31日)
シャイアー社統合費用		
販売及び一般管理費・研究開発費 - R&Dプログラム中止費用等	1	-
その他の営業費用 - 事業構造再編費用	△208	△900
	△207	△900
シャイアー社に係る企業結合会計影響		
売上原価 - 棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理	△265	△857
売上原価 - 有形固定資産の公正価値調整の償却	△1	△20
販売及び一般管理費・研究開発費	2	7
製品に係る無形資産償却費 - シャイアー社買収関連	△798	△3,240
その他の営業収益 - SHP647の売却義務解除	602	600 *1
	△460	△3,510
その他の非資金性の費用		
製品に係る無形資産償却費 - 旧武田薬品関連	△225	△830
製品に係る無形資産減損損失	△19	△500
	△244	△1,330
その他の営業収益/費用		
その他の営業収益 - SHP647の売却義務免除を除く	36	580
その他の営業費用 - シャイアー社統合費用を除く	△260	△730 *2
	△224	△150

キャッシュ・フロー・ガイダンス

(億円)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2020年度 修正業績予想 (2020年7月31日)
フリー・キャッシュ・フロー (公表済みの事業売却を含む)	1,463	6,000 ~7,000
資本的支出 (キャッシュ・フロー・ベース)	△405	△1,800 ~△2,300
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 (製品に係る無形資産償却費を除く)	△392	△1,500
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 (事業売却を除く)	N/A	10%台後半~ 20%台前半
その他見通しの主な前提		
(億円)	2020年度 第1四半期 (4-6月)	2020年度 修正業績予想 (2020年7月31日)
金融費用		
支払利息	△313	△1,330
その他	△155	△200
	△468	△1,530

注：2020年5月13日公表の2020年度予想から修正した項目は、*印で表示。*印のない箇所は修正なし。

*1 2020年5月の前提：N/A → 2020年7月の前提：600億円（SHP647売却に関する当社義務の欧州委員会による解除に伴う影響を反映）

*2 2020年5月の前提：△530億円 → 2020年7月の前提：200億円増加の△730億円（Novartis社の欧州におけるXIIDRA販売許可申請の取り下げに伴う影響を反映）

2020年度修正業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る 償却費 (旧武田薬品)	無形資産に係る 減損損失	その他の営業 収益/費用	シャイアー社 統合費用	シャイアー社に 係る企業結合 会計影響	
売上収益	32,500						32,500
売上原価						857	
棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理 有形固定資産の公正価値調整の償却						20	
売上総利益						877	
販売費及び一般管理費						△7	
製品に係る無形資産償却費	△4,070	830				3,240	-
製品に係る無形資産減損損失	△500		500				-
その他の営業収益	1,180			△580		△600	-
その他の営業費用	△1,630			730	900		-
営業利益	3,950	830	500	150	900	3,510	9,840

為替レートおよび2020年度の為替感応度

	平均レート（円）			1%為替円安影響（2020年7月～2021年3月）（億円）			
	2019年度 第1四半期 （4-6月）	2020年度 第1四半期 （4-6月）	2020年度 年間前提 （4-3月）	売上収益	Core営業利益	営業利益	当期利益
米ドル	111	107	109	+123.7	+49.7	+13.9	+5.2
ユーロ	124	118	120	+32.1	△13.9	△20.1	△15.1
ロシアルーブル	1.7	1.5	1.6	+2.5	+1.5	+1.2	+0.9
中国元	16.3	15.1	15.5	+7.4	+4.1	+4.1	+2.8
ブラジルリアル	28.0	20.2	23.3	+5.1	+3.0	+2.9	+2.0

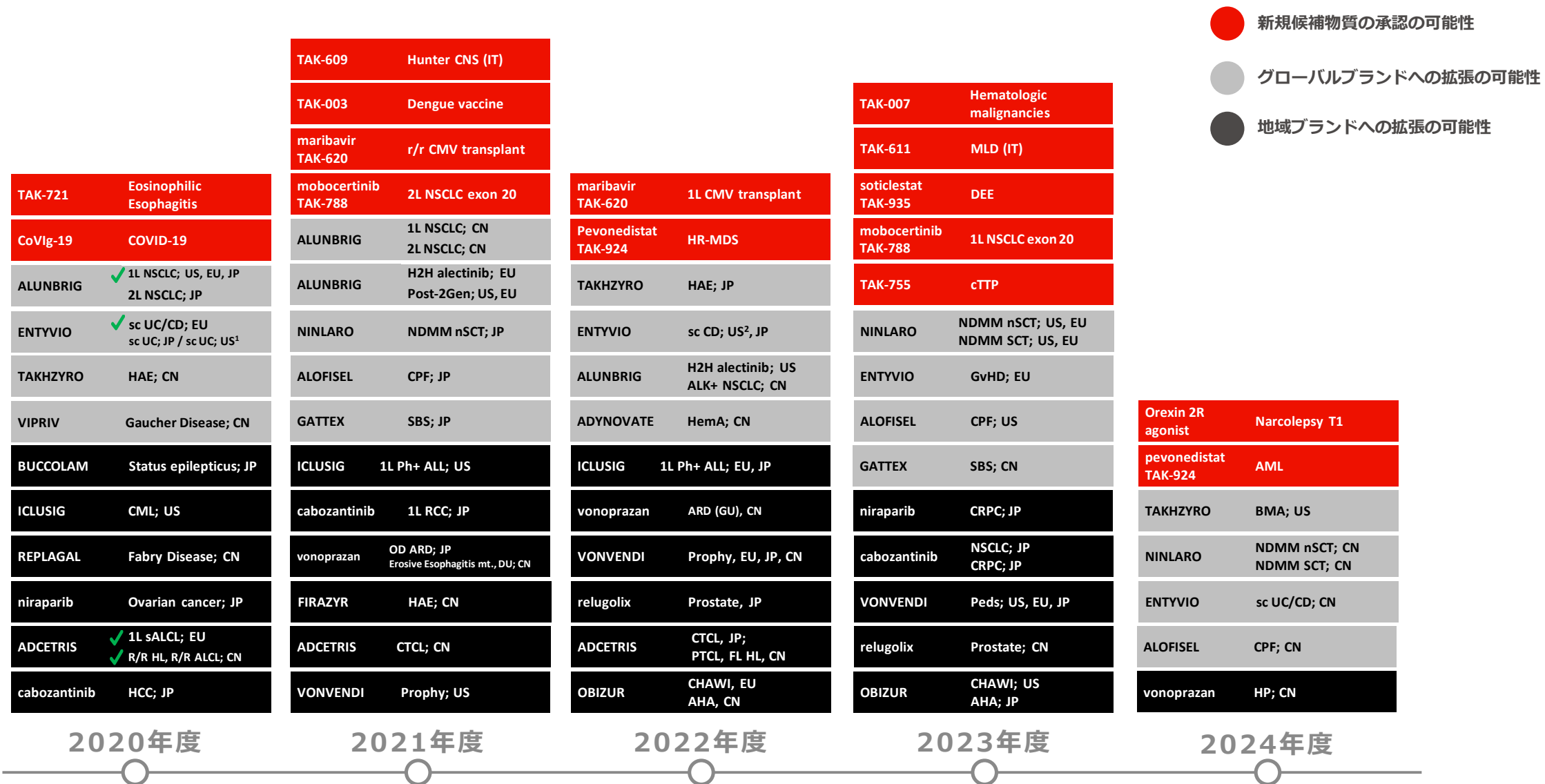
承認済み医薬品プログラムの価値最大化

	臨床第1相試験/臨床第2相試験	臨床第3相試験	申請
 オンコロジー	NINLARO® Proteasome inhibitor R/R MM triplet Tx (US, EU) ICLUSIG® BCR-ABL inhibitor TKI res. chronic phase CML (US) ALUNBRIG® ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 2nd gen TKI (GL) NINLARO® Proteasome inhibitor R/R MM doublet Tx (US, EU)	ALUNBRIG® ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (CN) NINLARO® Proteasome inhibitor Maint. ND MM no SCT (US, EU, CN) NINLARO® Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (US, EU) Cabozantinib <i>Exelixis</i> VEGFR/RTK inhibitor 1L RCC combo w/nivolumab (JP) ALUNBRIG® ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC H2H with alectinib (GL) ICLUSIG® BCR-ABL inhibitor FL Ph+ ALL (US)	NINLARO® Proteasome inhibitor Maint. ND MM no SCT (JP) Cabozantinib <i>Exelixis</i> VEGFR/RTK inhibitor 2L HCC (JP) ALUNBRIG® ALK inhibitor ALK+NSCLC (JP) Niraparib <i>GlaxoSmithKline</i> PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – maint. (JP) ADCETRIS® <i>Seattle Genetics</i> CD30 ADC CTCL (CN) Niraparib <i>GlaxoSmithKline</i> PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – salvage (JP)
 希少疾患	NATPARA PTH replacement Hypothyroidism (JP)	TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE pediatric (GL) TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE (JP) OBIZUR <i>Ipsen</i> FVIII replacement CHAWI (US, EU) VONVENDI vWF replacement vWD Prophylaxis (GL) VONVENDI vWF replacement vWD Pediatric (GL) ADYNOVATE Pediatric Hema (EU)	TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE prophylaxis (CN)
 ニューロサイエンス			BUCCOLAM GABA Allosteric Modulator Status Epilepticus (JP)
 消化器系疾患	ENTYVIO® α4β7 mAb Pediatric UC/CD (GL)	GATTEX GLP-2R agonist Adult-SBS (JP) ENTYVIO® α4β7 mAb GvHD Prophylaxis (EU, JP) ALOFISEL® mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD (US, JP) ENTYVIO® α4β7 mAb SubQ CD (US, JP) GATTEX GLP-2R agonist Pediatric-SBS (JP) Vonoprazan PCAB Oral disintegrated tablet formulation (JP) Vonoprazan PCAB H. Pylori (CN)	ENTYVIO® α4β7 mAb SubQ UC (US, JP) Vonoprazan PCAB Reflex Esophagitis Maintenance (CN) Vonoprazan PCAB Duodenal ulcer (CN)
 血漿分画製剤		CINRYZE PD C1 Esterase inhibitor HAE prophylaxis (JP) HYQVIA <i>Halozyme</i> IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase CIDP (US, EU) HYQVIA <i>Halozyme</i> IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase Pediatric PID (US)	

2020年7月31日時点のパイプライン。地域の略語: GL = グローバル(米国、欧州、日本、中国)。全てのパイプラインを示している訳ではありません。
異なる疾患領域でも開発を実施していることがあります。

- オーフアンドラッグ（希少疾病医薬品）指定
(いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの)
- 申請が可能な臨床第2相試験

**2019年度のコミットメントに引き続き、
ウェーブ1プログラムの短期間での着実な成長を計画**



*1. UCを対象とする皮下投与製剤の米国承認は、審査完了通知（CRL）の内容の解決タイムラインに依存する

*2. CDでの申請・承認時期は、UCの承認時期による

✔ 2020年度に承認取得。今後の目標日は、2020年7月31日現在における現時点のデータに基づく推計値であり、変更の可能性はある

臨床評価中のパイプラインの対象となる患者集団

ファーストインクラスまたはベストインクラスの可能性を有する新規候補物質

	製品	作用機序	適応	対象患者集団 (米国) ¹	対象患者集団 (世界) ^{1,2}
 オンコロジー	●● mobocertinib (TAK-788)	EGFR/HER2 チロシンキナーゼ阻害薬	Exon20 非小細胞肺癌 1L / 2L HER2変異非小細胞肺癌 2L+/ HER2変異固形がん	~4千人 ~2.6千人 / 調査中	~2-3万人 ~8千人 / ~8千人 ³
	●● pevonedistat (TAK-924)	NAE阻害剤	高リスク骨髓異形成症候群/急性骨髓性白血病	~7千人 / ~1.2万人	1.5-2万人 / 2-2.5万人
	TAK-007	CD19 CAR-NK	血液がん	~9千人	~1.5-2.5万人
 希少疾患 免疫疾患 血液疾患 代謝性疾患	● TAK-609	酵素補充療法 / I2S補充	ハンター-CNS (IT)	~250人	~1-1.5千人
	●● maribavir (TAK-620)	UL97キナーゼ阻害剤	移植時のサイトメガロウイルス感染 (R/R & 1L)	~7千人-1.5万人	~2.5-4.5万人
	TAK-611	酵素補充療法 / アリルスルファターゼA	異染性白質ジストロフィー (IT)	~350人	~1-2千人
	● TAK-755	酵素補充療法 / ADAMTS-13	先天性血栓性血小板減少性紫斑病 / 免疫性血栓性血小板減少性紫斑病	~500人 / ~2千人	2-6千人 / 5千-1.8万人
	TAK-607	IGF-1/IGFBP3	早産時における合併症	~2.5千人	~8-9万人
 ニューロサイエンス	Orexin programs	オレキシン2受容体作動薬	ナルコレプシータイプ1 ナルコレプシータイプ2	~7万人 ⁴ ~3万人	~30-120万人 ~25-90万人
	soticlestat (TAK-935)	CH24H阻害剤	発達性およびてんかん性脳症	~5万人	~7-9万人
 消化器系疾患	● TAK-721	経口抗炎症剤	好酸球性食道炎	~15万人	調査中
	TAK-101 / TAK-062	免疫寛容療法 / グルタナーゼ	グルテンフリー食にも関わらず 重篤・難治性なセリアック病	35万人	70万人 ⁵
 ワクチン	● TAK-003	ワクチン	デング熱	~3200万人	~18億人

*1. 規制当局からの承認取得を前提に、製品上市が想定される市場における治療対象患者数の予測推定値

*2. TAK-788, TAK-924, TAK-007, TAK-607 および TAK-620については、年間発症数を対象とみなしている

*3. 主要7ヶ国における発症者

*4. 対象となる患者集団の修正
予想：有病者数 約14万人

*5. EUCANのみの数字。世界の対象患者数は調査中

● 現在、ピボタル試験あるいは申請可能なPh2試験を実施中

経験豊富で多様性に富んだタケダ・エグゼクティブチーム

日本



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル
オフィサー

岩崎 真人
ジャパン ファーマ
ビジネスユニット
プレジデント

大薮 貴子
チーフ グローバル
コーポレート アフェアーズ
オフィサー

中川 仁敬
グローバル ジェネラル
カウンセル

**パドマ・
ティルヴェンガダム**
チーフ HR オフィサー

古田 未来乃
コーポレートストラテジー
オフィサー &
チーフ オブ スタッフ

米国



**アンディー・
ブランブ**
リサーチ&開発
プレジデント

ラモナ・セケイラ
US ビジネスユニット プレジデント &
グローバル ポートフォリオ
コマーシャライゼーション プレジデント

テレサ・ビテッティ
グローバル オンコロジー
ビジネス ユニット
プレジデント

ラジーヴ・ヴェンカヤ
グローバル ワクチン
ビジネスユニット
プレジデント

ジェラード・グレコ
グローバル クオリティ
オフィサー

マルチェロ・アゴスティ
グローバル
ビジネス開発
オフィサー

スイス



**ジャイルズ・
プラットフォーム**
EUCAN ビジネスユニット
プレジデント

ジュリー・キム
プラズマ デライブド
セラピーズ ビジネスユニット
プレジデント

トマス・ウォスニフスキー
グローバル
マニュファクチャリング &
サプライ オフィサー

ムワナ・ルゴゴ
チーフ エシックス &
コンプライアンス
オフィサー

シンガポール



リカルド・マレック
グロース&エマージング
マーケットビジネスユニット
プレジデント

約70%の社外取締役および3つの委員会による強固な取締役体制

社内取締役



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



岩崎 真人
取締役
ジャパン ファーマ
ビジネスユニット プレジデント



アンドリュー・ブランブ
取締役
リサーチ&デベロップメント
プレジデント



コスタ・サルウコス
取締役
チーフ フィナンシャル
オフィサー

監査等委員会



山中 康彦
取締役
監査等委員

独立社外取締役*1



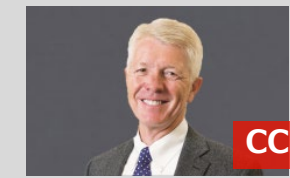
坂根 正弘
独立取締役
取締役会議長
指名委員会委員長



オリビエ・ボユオン
独立取締役



ジャン=リュック・ビテル
独立取締役



イアン・クラーク
独立取締役



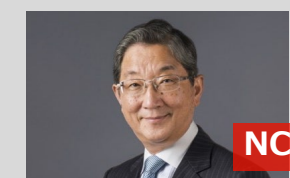
藤森 義明
独立取締役



スティーブン・ギリス
独立取締役



国谷 史朗
独立取締役



志賀 俊之
独立取締役



初川 浩司
独立取締役
監査等委員会委員長



東 恵美子
独立取締役
監査等委員
報酬委員会委員長



ミシェル・オーシンガー
独立取締役
監査等委員

CB 取締役会議長

独立社外取締役*1

NC 指名委員会*2

CC 報酬委員会

*1. 東京証券取引所の有価証券上場規定の定義によるもの

*2. クリストフ・ウェバーは指名委員会にオブザーバーとして参加

略語用語集

地域に関する略語:
CN: 中国; EU: 欧州; JP: 日本; US: 米国

AD	Alzheimer’s disease（アルツハイマー病）
ADC	antibody drug conjugate（抗体薬物複合体）
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder（注意欠陥多動性障害）
ALK	anaplastic lymphoma kinase（未分化リンパ腫キナーゼ）
ALS	amyotrophic lateral sclerosis（筋萎縮性側索硬化症）
AML	acute myeloid leukemia（急性骨髄性白血病）
ASCT	autologous stem cell transplant（自家幹細胞移植）
ARD	acid-related diseases（酸関連疾患）
BTK	Bruton's tyrosine kinase（ブルトン型チロシンキナーゼ）
BBB	blood brain barrier（血液脳関門）
BOS	budesonide oral solution（ブデソニド経口懸濁液）
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T（次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞）
CD	Crohn's disease（クローン病）
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors（インヒビター保有先天性血友病A）
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia（統合失調症に伴う認知障害）
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy（慢性炎症性脱髄性多発根神経炎）
CLL	chronic lymphocytic leukemia（慢性リンパ性白血病）
CML	chronic myeloid leukemia（慢性骨髄性白血病）
CMML	chronic myelomonocytic leukemia（慢性骨髄単球性白血病）
CMV	cytomegalovirus（サイトメガロウイルス）
CSF	cerebrospinal fluid（脳脊髄液）
CNS	central nervous system（中枢神経系）
CRL	complete response letter（審査完了報告通知）
CRPS	complex regional pain syndrome（複合性局所疼痛症候群）
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma（皮膚T細胞性リンパ腫）
cTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura（先天性の血栓性血小板減少性紫斑病）

DAAO	D-amino acid oxidase（D-アミノ酸酸化酵素）
DEE	developmental and epileptic encephalopathies（けいれん性てんかん重積状態）
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma（びまん性大細胞型B細胞リンパ腫）
DU	duodenal ulcer（十二指腸潰瘍）
Dx	diagnosis（診断）
EE H	erosive esophagitis healing（びらん性食道炎の治癒）
EE M	erosive esophagitis maintenance（びらん性食道炎の再発予防）
EFI	enteral feeding intolerance（経腸栄養不耐性）
EGFR	epidermal growth factor receptor（上皮増殖因子受容体）
EOE	eosinophilic esophagitis（好酸球性食道炎）
ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma（食道扁平上皮がん）
FL	front line（フロントライン適応）
FSI	first subject in（最初の患者登録）
GCC	guanylyl cyclase C（グアニル酸シクラーゼC）
GERD	gastroesophageal reflux disease（胃食道逆流症）
GI	gastrointestinal（胃腸）
GnRH	gonadotropin-releasing hormone（ゴナドトロピン放出ホルモン）
GU	gastric ulcer（胃潰瘍）
GvHD	graft versus host disease（移植片対宿主病）
HAE	hereditary angioedema（遺伝性血管浮腫）
H2H	head to head（直接比較）
HCC	hepatocellular carcinoma（肝細胞がん）
HemA	hemophilia A（血友病A）
HER2	human epidermal growth factor receptor 2（ヒト上皮成長因子受容体2）
HL	Hodgkin’s lymphoma（ホジキンリンパ腫）
HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes（高リスク骨髄異形成症候群）
IBD	inflammatory bowel disease（炎症性腸疾患）
IND	investigational new drug（治験薬）
iNHL	Indolent non-Hodgikin’s Lymphoma（低悪性度非ホジキンリンパ腫）
I/O	immuno-oncology（がん免疫治療）

iTTP	immune thrombotic thrombocytopenic purpura（免疫性血栓性血小板減少性紫斑病）
IV	intravenous（静脈投与）
iPSC	induced pluripotent stem cells（人工多能性幹細胞）
L-ASA	low dose aspirin（低用量アスピリン）
LBD	Lewy Body Dementia（レビー小体病）
LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia（低プラスト急性骨髄性白血病）
LSD1	Lysine specific demethylase 1（リジン特異的脱メチル化酵素1）
LCM	lifecycle management（ライフ・サイクル・マネジメント）
mAb	monoclonal antibodies（モノクローナル抗体）
MAOB	monoamine oxidase B（モノアミン酸化酵素B）
MG	myesthenia gravis（重症筋無力症）
MLD	metachromatic leukodystrophy（異染色性白質ジストロフィー）
MM	multiple myeloma（多発性骨髄腫）
NAE	NEDD8 activating enzyme（NEDD8活性化酵素）
ND	newly diagnosed（新たに診断された）
NDA	new drug application（新薬承認申請）
Neg	negative（陰性）
NERD	non-erosive reflux disease（非びらん性胃食道逆流症）
NK	natural killer（ナチュラルキラー）
NME	new molecular entity（新規候補物質）
NSCLC	non-small cell lung cancer（非小細胞肺癌）
NSCT	non stem cell transplant（非幹細胞移植）
NS	negative symptoms（陰性症状）
ORR	overall response rate（全奏効率）
PARP	poly (ADP-ribose) polymerase（ポリADPリボースポリメラーゼ）
PBS	phosphate buffered saline（リン酸緩衝生理食塩水）
PCAB	potassium competitive acid blocker（カリウムイオン競合型アシッドブロッカー）
Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia（フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病）
PID	primary immunodeficiency（原発性免疫不全）

PK	pharmacokinetics（薬物動態）
POC	proof of concept（概念実証）
POGD	post-operative gastrointestinal dysfunction（術後消化器機能障害）
POI	post-operative ileus（術後イレウス）
PTCL	peripheral T-cell lymphoma（末梢性T細胞リンパ腫）
PTH	parathyroid hormone（副甲状腺ホルモン）
R/R	relapsed/refractory（再発/難治）
RCC	renal cell cancer（腎細胞がん）
RTK	receptor tyrosine kinase（受容体チロシンキナーゼ）
sALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma（全身性未分化大細胞リンパ腫）
SBS	short bowel syndrome（短腸症候群）
SC	subcutaneous formulation（皮下投与製剤）
SCD	sickle cell disease（鎌状赤血球症）
SCT	stem cell transplant（幹細胞移植）
SCZ	schizophrenia（統合失調症）
SLE	systemic lupus erythematosus（全身性エリテマトーデス）
sq	squamous（扁平上皮）
STING	stimulator of interferon genes（インターフェロン遺伝子刺激因子）
SUMO	small ubiquitin-related modifier（低分子ユビキチン様修飾因子）
TESD	treatment emergent sexual dysfunction（治療に起因する性機能障害）
TKI	tyrosine kinase inhibitor（チロシンキナーゼ阻害剤）
TRD	treatment resistant depression（治療抵抗性うつ病）
UC	ulcerative colitis（潰瘍性大腸炎）
vWD	von Willebrand disease（フォン・ヴィレブランド病）



SUPPLEMENTAL



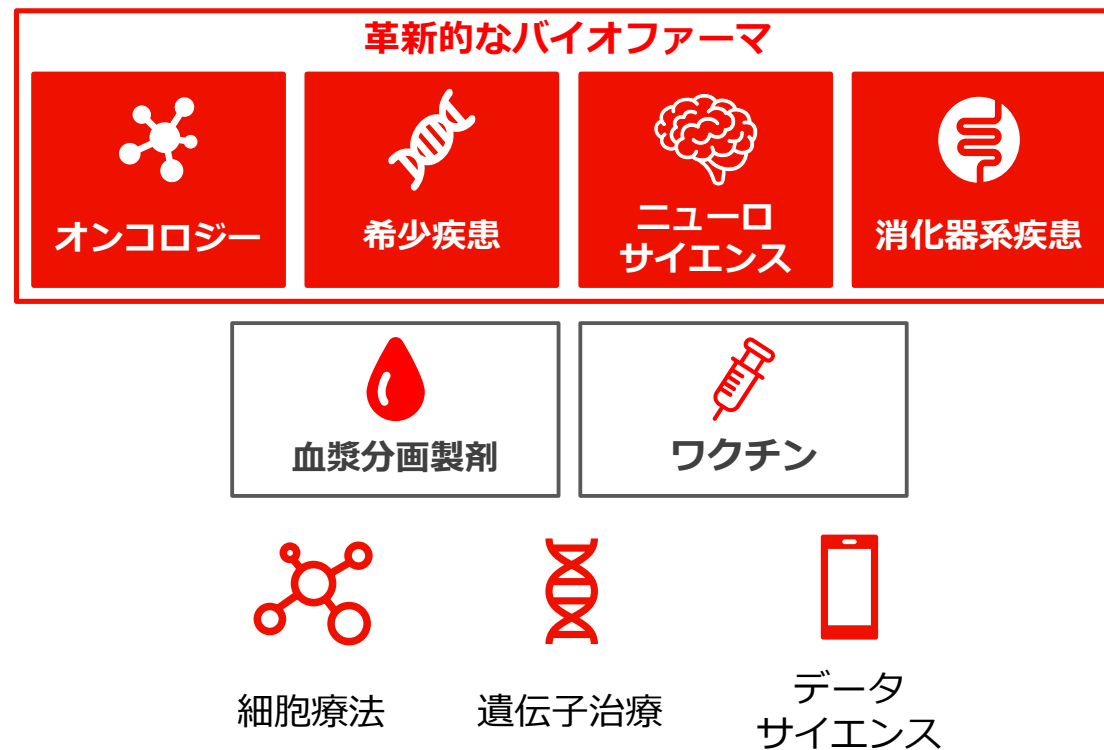
主要な領域における深いフォーカスと専門知識に基づく成功

ビジネスエリア フォーカス



- 主要な5つのビジネスエリアは、2019年度売上収益の約79%を占め実質的な成長率は+6%¹
- グローバルブランド14製品の実質的な成長率は+22%¹

R&D フォーカス

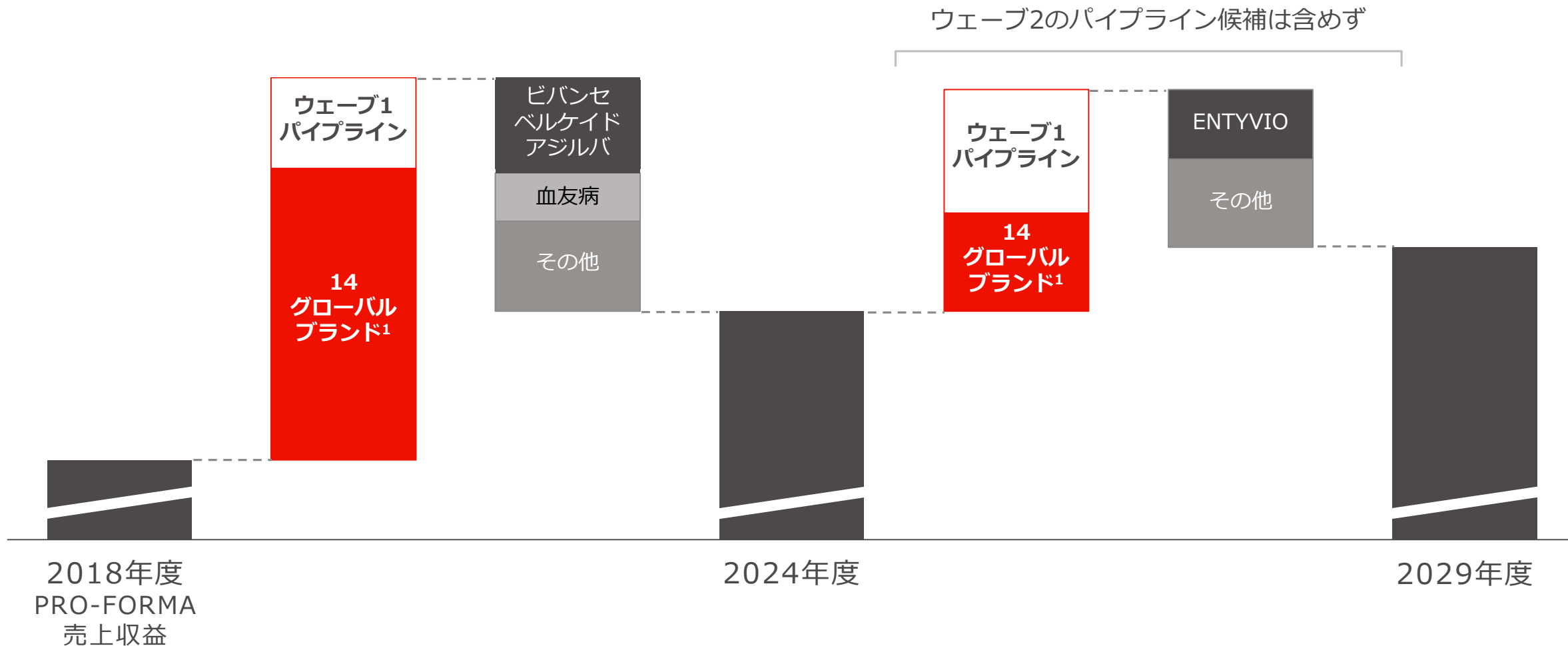


- 12のウェーブ1 NMEs² :
ピーク売上合計で100億米ドルを超える可能性
- 約30のウェーブ2 NMEs² : 豊富な早期臨床パイプライン

*1. 対前年の変化は、対2018年度の実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。

*2. ウェーブ1プログラムは、2024年度までに上市予定の新規候補物質（NMEs）のプロジェクト。ウェーブ2プログラムは、2024年度以降に上市予定のNMEsのプロジェクト。

持続的な成長を実現するための グローバルブランド14製品およびウェーブ1パイプライン



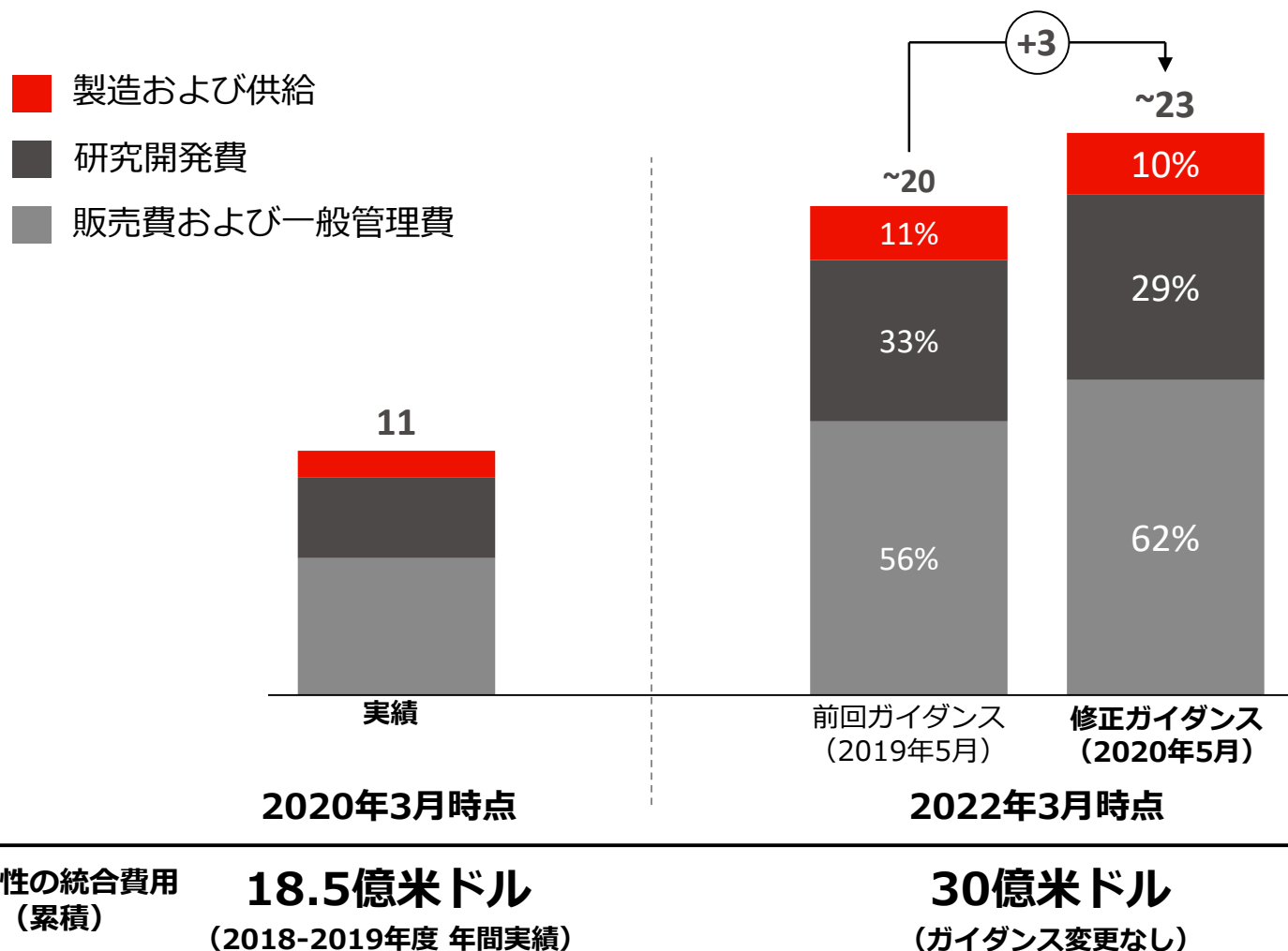
注：本チャートは2019年11月14日のTakeda's R&D Dayで最初に発表してから変更していません

*1. 2018年度から2024年度における14グローバルブランドにはENTYVIOが含まれているが、2024年度から2029年度の14グローバルブランドからは除かれている。

上記のチャートは、2024年から2029年までの売上収益の概念的な変化を示したものであり、独占販売権の消失による減収を補いつつ、2018年度 Pro formaベースラインと比較して1桁台の成長を達成する見込みを示している。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。タケダの発売済み製品およびパイプラインによる将来の実際の売上収益は異なる可能性があり、場合によっては大幅に異なる可能性がある。これは、臨床開発の結果が、安全性、有効性および製品の添付文書など多くの変数によって大幅に変わる可能性があるためである。さらに、製品が承認された場合の患者集団、競争環境、価格設定および保険償還などの商業上の要因の影響も不明である。ウェーブ1パイプラインの売上収益見込みはリスク調整を行っていない。

販売費および一般管理費の効率化により、コストシナジーの目標を20億米ドルから23億米ドルへ増加

年間コストシナジーの展開（億米ドル）¹



シナジー目標の増加

- タケダビジネスソリューションズ（TBS）によって可能となった、合理化された販売費および一般管理費が主に貢献
- コストシナジーによって追加創出された300百万米ドルは、中国における成長・血漿分画製剤・研究開発に再投資される予定

想定よりも早いコストシナジーの実現

- 2020年3月までに、年間換算で11億米ドルのコストシナジーを達成し、力強い2019年度の利益率を実現
- 20億米ドルの当初目標に対して、2020年度末までに90%以上となる予定（当初計画は70%）

統合費用は変更なし

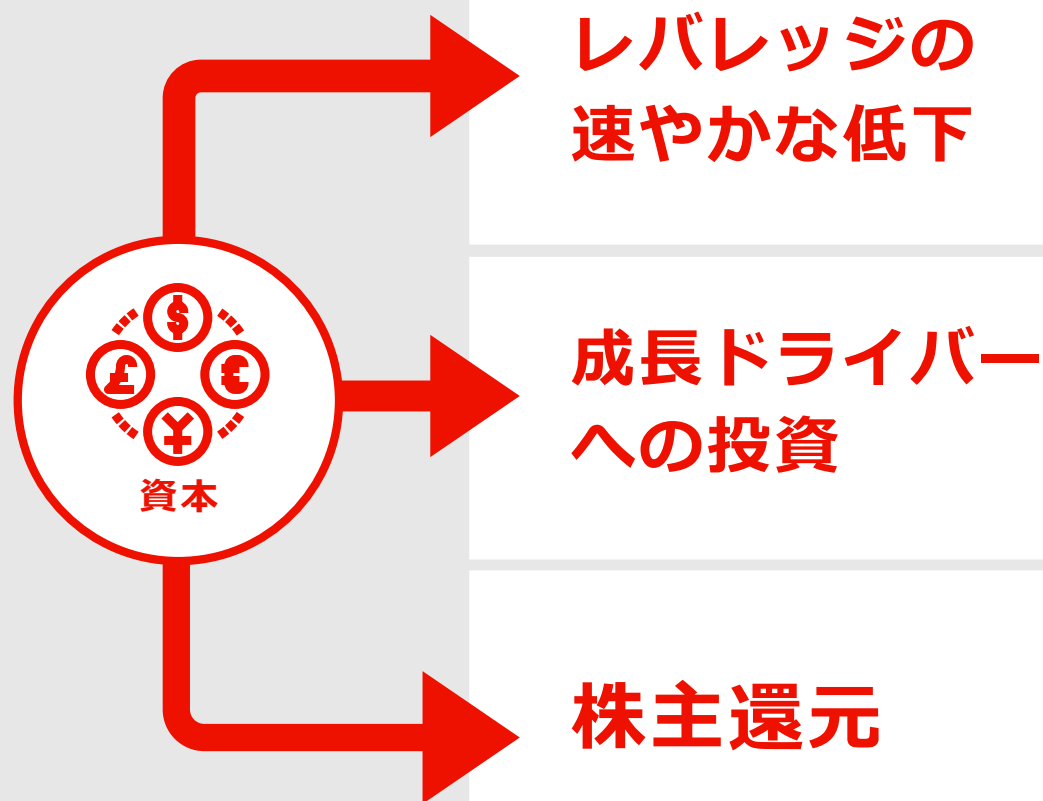
- 一過性の統合費用目標は2022年3月までに30億米ドルで変更なし、2020年3月時点で18.5億米ドルを支出
- 契約条件等についての交渉は想定よりも進捗しており、追加費用なしのシナジーを見込む

*1. 継続する年間の税引前コストシナジー（年間換算）。コストシナジーの前提となるベースラインの詳細については、2018年5月に公表したRule 2.7の68-69ページに記載の

「Bases of Belief for the Quantified Financial Benefits Statement (リンク)」をご参照下さい。

患者さんおよび株主に対する価値を最大化するための資本配分

- ビジネスモメンタム、コストシナジー、ノン・コア資産売却による力強いキャッシュフローで、財務上のコミットメントを達成、患者さんおよび株主に対する価値を最大化するための資本配分を実施



- 2022年3月末から2024年3月末までに、純有利子負債／調整後EBITDA¹倍率を2倍へ
- 投資適格格付の維持にコミット

- 研究開発における戦略的な投資（社内および提携）
- 中国市場を含む新製品上市
- 血漿分画製剤事業のプレゼンス拡大

- 成長モメンタムは2020年度も継続し、中期的に加速へ
- 1株当たり年間配当金180円の確立された配当方針

